

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

おり がみ うた あわせ

折紙歌合

—折り紙が詠み込まれた短歌と俳句—

Origami Utaawase Match: Waka and Haiku with Origami

前川 淳

Maekawa Jun



折り図 Diagrams

鮎

Ayu (Sweetfish)

富永和裕

Tominaga Kazuhiro

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

アライグマ

Raccoon

森澤碧人

Morisawa Aoto

つまみおり Information

第10回折紙探偵団静岡コンベンション参加申し込み受付開始

Registration Open for the 10th Origami Tanteidan Shizuoka Convention

通巻 171 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線

Line indicating valley fold

山折り線

Line indicating mountain fold

手前に折る

Fold paper forwards

後ろへ折る

Fold paper backwards

折り筋をつける

Making a crease line

段折り

Pleat fold

裏返す

Turn paper over

引き出す

Pull out

図の見る位置が変わる

Rotation

図が大きくなる

A magnified view

見えないところ

A hidden line

押す、押しつぶす

Push paper in

切る

Cut

「アライグマ」(P.38)

作: 森澤碧人

Raccoon (P.38)

by Morisawa Aoto

■明快な縞模様となめらかな曲面の背中、目指す完成形を実現するためにたどりついた非対称の展開図。確かな技術力を基盤として導き出されたデザインは、見ていて安心感があります。

(解説: 北條高史) Comments: Hojo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. **171**



Raccoon: Morisawa Aoto

クローズアップ / Close-up

おりがみうたあわせ

P.13 折紙歌合ー折り紙が詠み込まれた短歌と俳句ー

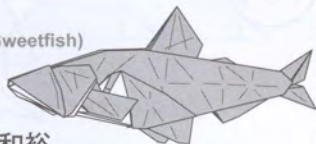
Origami Utaawase Match: Waka and Haiku with Origami

前川 淳
Maekawa Jun

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 鮎

Ayu (Sweetfish)



富永和裕
Tominaga Kazuhiro

P.38 展開図折りに挑戦!
Crease Pattern Challenge!

アライグマ

Raccoon

森澤碧人
Morisawa Aoto

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue

解説・北條高史
Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 ユニット折り紙カルテット

Modular Origami Quartette

樹 自由自在
Tree free and easy!

川崎敏和

Kawasaki Toshikazu

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

琉金
Ryukin (A Goldfish)

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

『計算折り紙入門』
"Introduction to Computational Origami"

三谷 純

Mitani Jun

P.18 ぼくらは折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

題名は大切に
Don't Underestimate a Model's Name

ジェラルド・ガチャルナ・ラミレス
Gerardo Gacharna Ramirez

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.36 おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

小林弘明

Kobayashi Hiroaki

P.37 折紙四六時中

Every Minute Origami

前川 淳

Maekawa Jun

情報 / Information

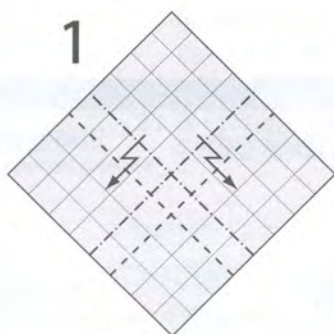
P.39 つまみおり Rabbit Ear

第10回折紙探偵団静岡コンベンション参加申し込み
受付開始

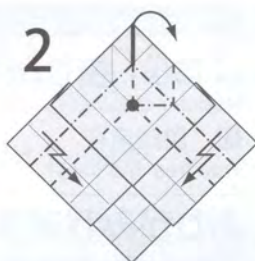
Registration Open for the 10th Origami Tanteidan Shizuoka Convention

「根っこ」と「枝」と「葉っぱ」を組んで作る樹です。用紙サイズや中割り折りの角度を変えることで様々な樹が表現できます。今春考案したので、季節はずれですが、さくら色で「葉っぱ」を折って「山桜」にします。

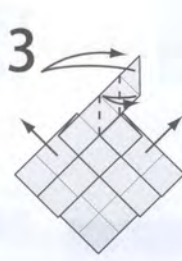
Step1 葉っぱ(桜花)を作る 7.5cm角さくら色で12枚折ります。



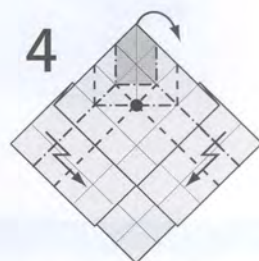
1
段折りする
どちらを先に折ってもよい



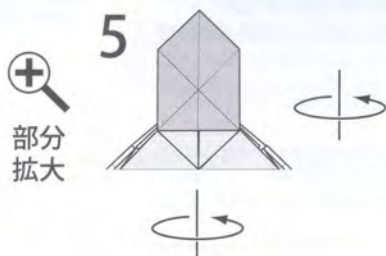
2
太線をつまんで
●をへこませて
段折りする



3
しっかり折り目を
つけてから広げる



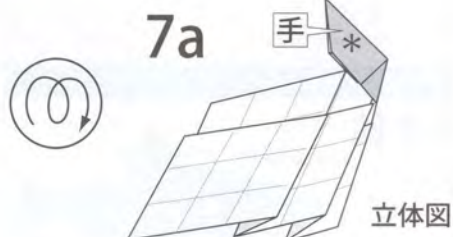
4
濃い部分を平たくして
●をへこませて
段折りする



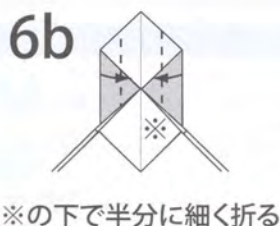
5
部分
拡大



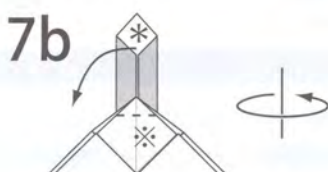
6a
*をつまんで立てる
太線は直角に山折り



7a
立体図



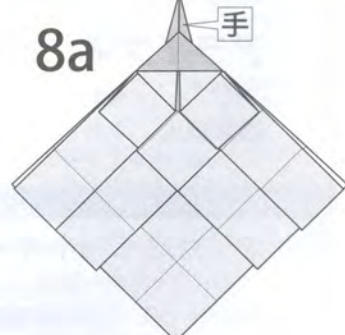
6b
※の下で半分に細く折る



7b
直角に折って*を立てる



8b
葉っぱ b 完成

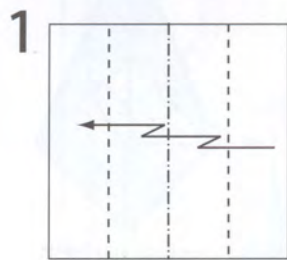


8a
葉っぱ a 完成

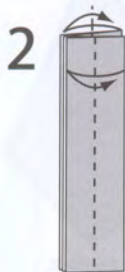
Step2 枝パーツを作る

高、中、低の3種類あります。7.5cm角(茶)で4個ずつ作ります。

工程2', 8', 2''の折り目の位置は少し上下しても構いません。



4等分蛇腹折り



折り目をつける



重ねて折る



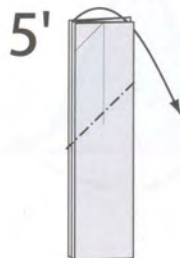
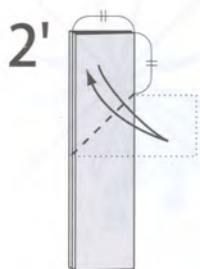
表裏に折る



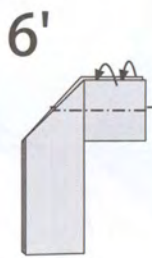
45度開く



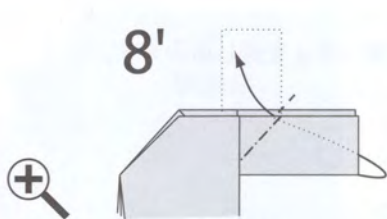
高枝完成



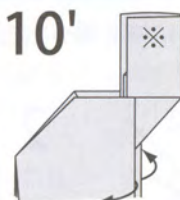
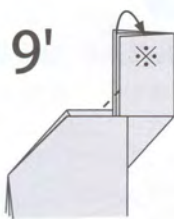
中割り折り



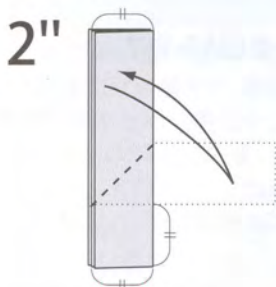
内側に折る



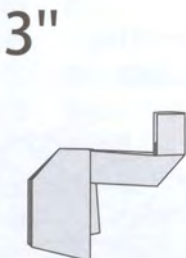
中割り折り



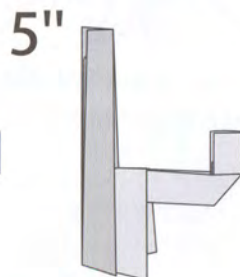
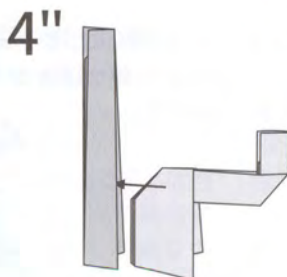
中枝完成



工程2'~11'と同じ



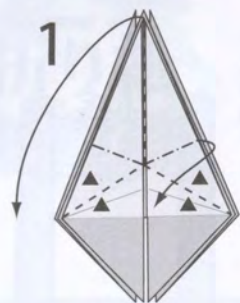
低枝完成



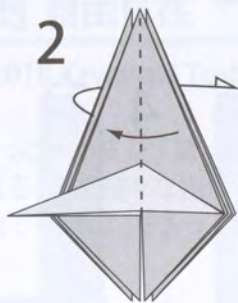
高枝のように8分の1に細く折ってから中割り折りすると枝が細くなります。

Step3 根っこを作る

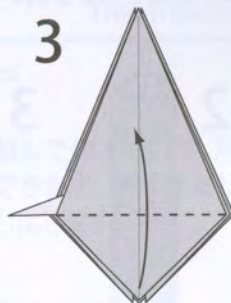
15cm角(茶)で折ったアヤメの基本形から始めます。



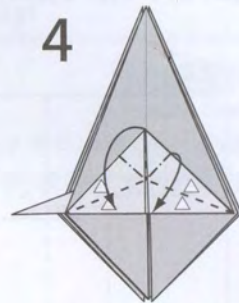
つまみ折りする



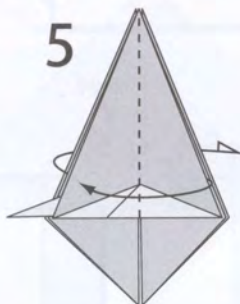
1枚ずつめくる



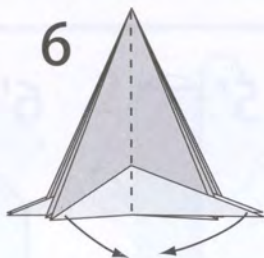
1枚折る



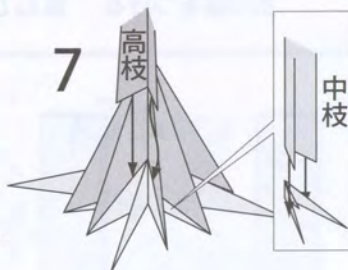
つまみ折りする



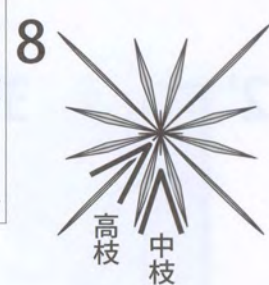
工程1~4をくり返す



ヒダを均等に開く



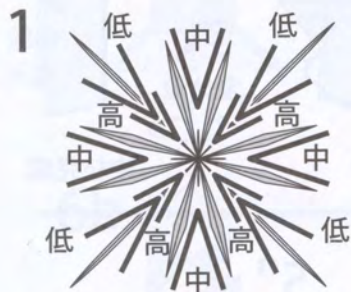
根っこ完成
高枝を差し込む
隣に中枝が差し込める



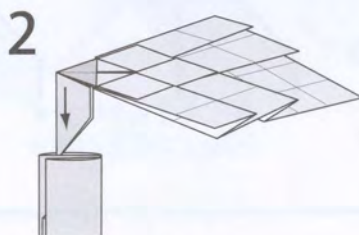
ま上から見た図

Step4 根っこに枝、枝に葉っぱを取りつける

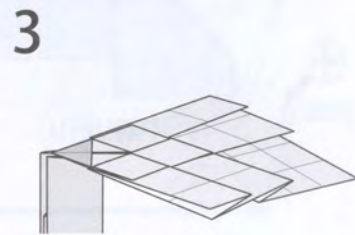
Step3工程7の矢印のように枝を根っこに差し込んだあと、枝の袋に葉っぱaを差し込みます。



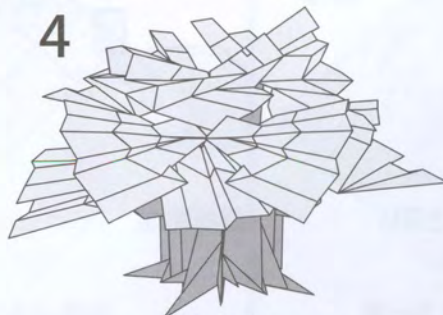
Step2工程5"を4か所
残り4か所に中枝を差し込む



枝の上端の袋の一方に
葉っぱaを差し込む

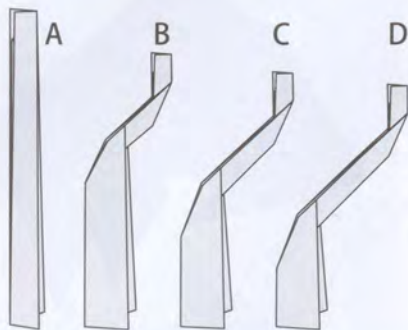


差し込み完了

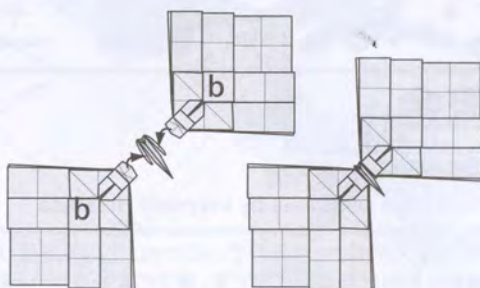


山桜完成

Step5 アレンジ ガジュマルも作れます。



7.5cm×15cmで折った枝



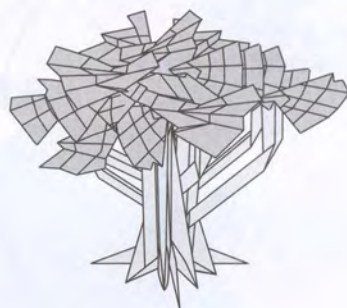
枝B, C, Dに葉っぱbを取りつける
枝Aに葉っぱaを取りつける



鶴の基本形で作った根っこ



AとC, BとDを
根っこに差し込む



ガジュマル

折り紙の 周辺

布施知子 Fuse Tomoko

第90回
クロヒカゲ
Diana Treebrown

Origami and
Its Neighbors

日本中暑い暑い夏だった。ここ信州も例年にない暑さで、雨も少なく、植物も葉を丸めて暑さをしのいでいた。蝉だけが元気に鳴いた。この夏はどこにも出かけず、淡々と作品作りに励んだ。窓を開け放っているの、いろいろな虫がはいってくる。アブやハチは厄介だが、トンボやチョウは歓迎だ。その中で一頭のクロヒカゲというチョウが、振り払っても振り払っても、腕に止まって汗をなめた。こちらが多少動いても逃げ

ない。口吻が肌に触れるひたひたと冷たい感触を受けながら折り紙をするのは、愉快だった。こんなことが生活の彩りとなる。

出版の仕事を絞り、やりたい折り紙、つまり折り紙ならではの造形的な形を探す(いつだってやりたいことをやっているじゃないか、と連れ合いに突っ込まれたが)、と決めて数年が経つ。

ありがたいことに、展覧会や芸術祭への参加に声が掛かり、ホテルを中心に平織やランプシェード作品が売れるようになってきた。

今まで折紙作品を売することは考えていなかったの、まず値段に困った。それから、何しろ紙なので、退色や型くずれもある。ランプシェードは専用の難燃紙を使っても5年くらいで黄ばむ。障子は、毎年とはいかないまでも数年で張り替えることを前提としている。そういう

文化が日本にはある。変容していく過程もたのしんでいただきたい、とクライアントには申し上げて理解を得ている。

鉄、ガラス、木、石などとは違う柔らかさと軽ろみが紙にはある。呼吸している。湿度や空気の流れを感じつつ、徐々に年老いていく。後世に残る作品はもちろんすばらしいが、寿命がきて消えてしまうものもわるくない、とこの頃思う。

しばしば紙を購入している會津流小出生紙工房の渡部敬三さんは、「ぼくの漉く紙は、百年くらい、年を経るごとに枯れていい味になってくる。それまで生きてはいられないが」とおっしゃっていた。私はこの紙で平織を制作したが、百年後はどうなっているだろう。

渡部さんの紙は値段が高い。世界一高い紙だ、と本人はおっしゃっている。

第91回

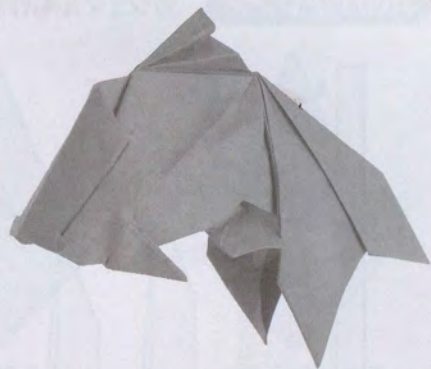
琉金

Ryukin (A Goldfish)

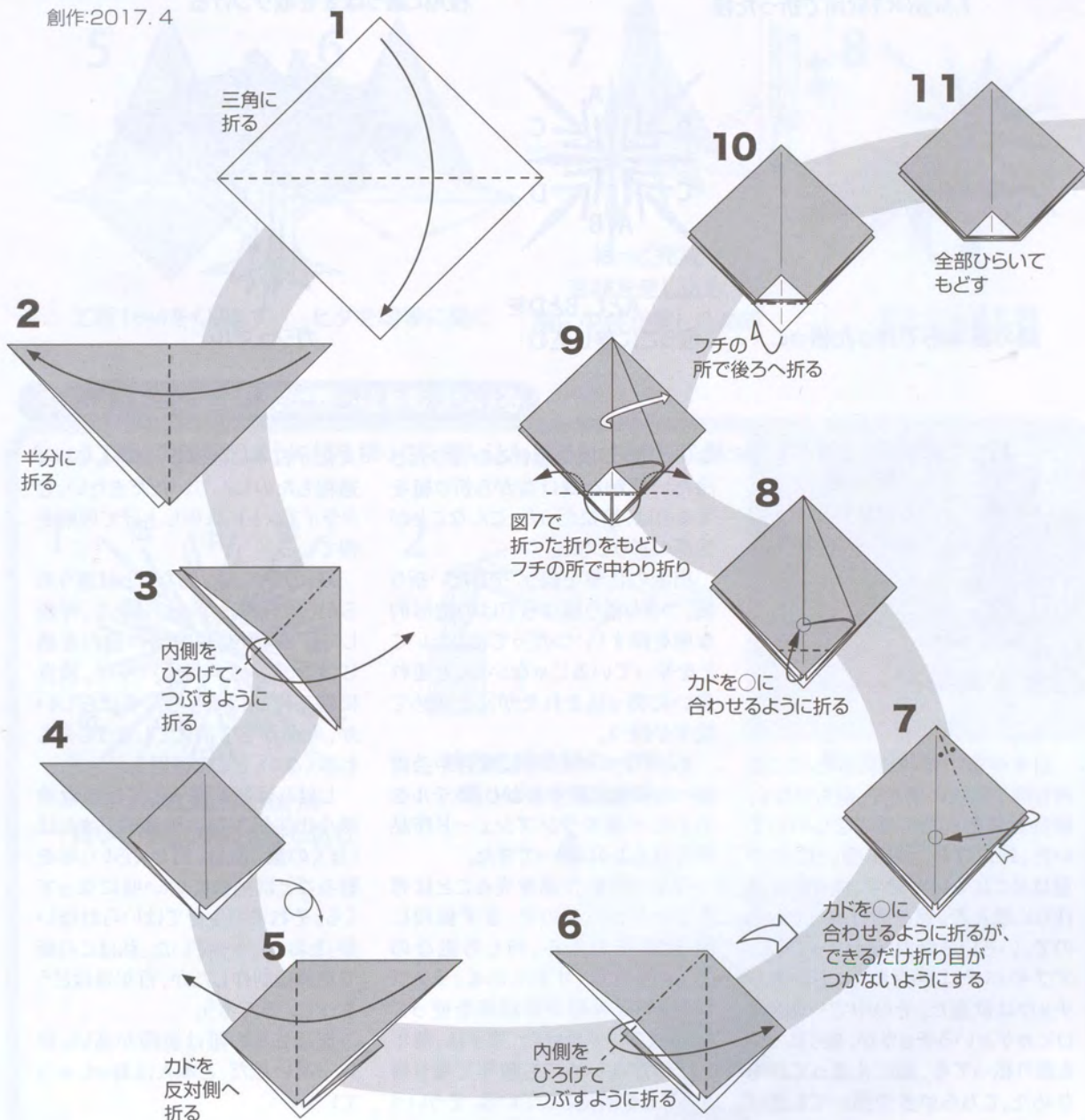
創作・折り図: 稲吉秀尚

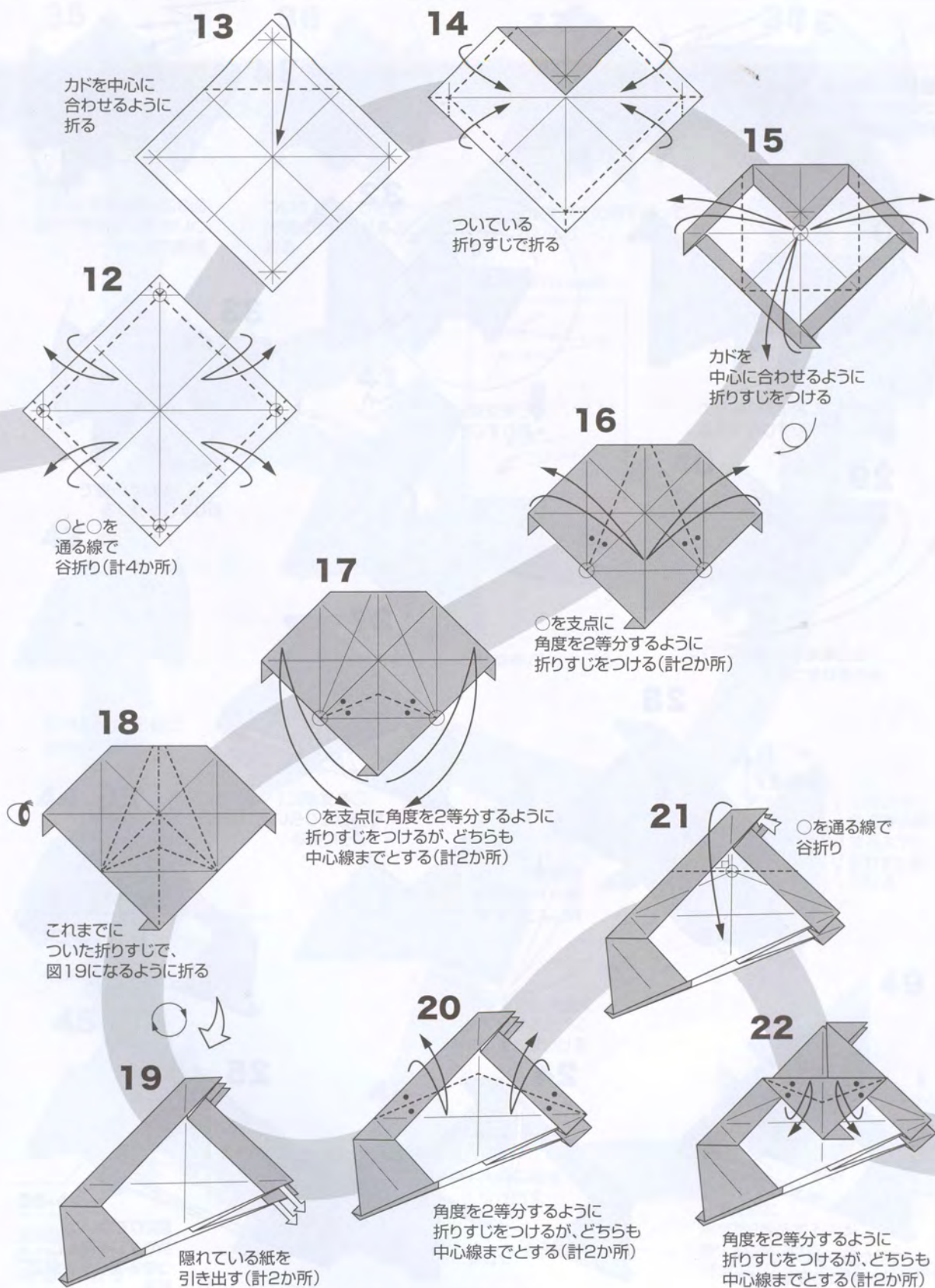
Model and Diagrams by Inayoshi Hidehisa

比較的完成サイズが小さくなるので、20cm以上の紙を使ってください。
大きくて優雅な尻尾が特徴の作品です。薄手の和紙を使うと軽やかな仕上がりになりますよ。



創作: 2017. 4





31

図29～図30で
つけた折りすじで
内側に段折り

30

○を支点に、角度が2等分
になるように折りすじをつける

29

○と○をむすぶ線で
折りすじをつける

28

20-27

反対側も
図20～図27と
同じように折る

32

○を支点に、
折りすじをつける

34

図32～図33で
つけた折りすじで
外側に段折り

33

○と○をむすぶ線で
折りすじをつける

27

○を支点に1～3の順に
内側をひらいてつぶす
ように折る

26

とじる

23

つけた折りすじを使って
つまみ折りの要領で折る

24

ひらく

25

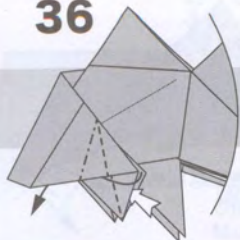
図20でつけた
折りすじを使って
つまみ折りの要領で
折る

35



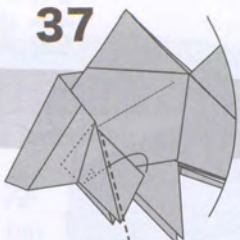
角度が
2等分になるように
折りすじをつける

36



ついた折りすじを使って
内側に引きよせるように
折る

37



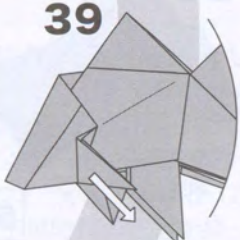
カドをフチの所で折って
さし込む

38



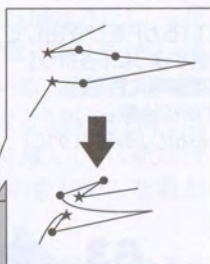
ななめに段折り
(ぐらい折り)

39

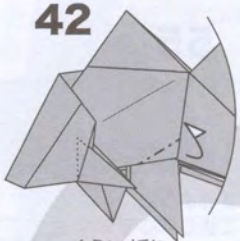


もどす

イメージ(Image)

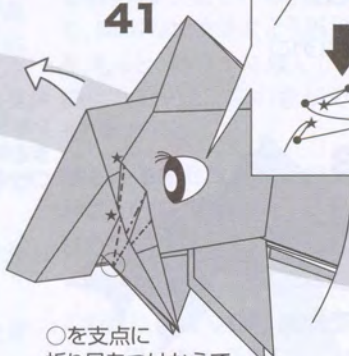


42



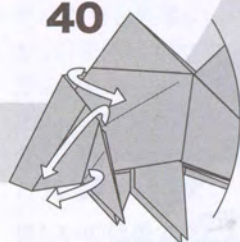
ぐらい折り

41



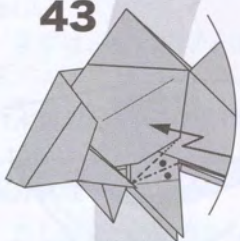
○を支点に
折り目をつけかえて
まとめなおす(イメージを参考に)

40



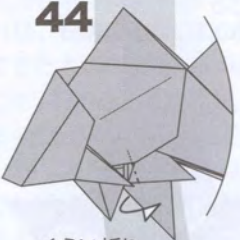
それぞれ軽くひらく

43



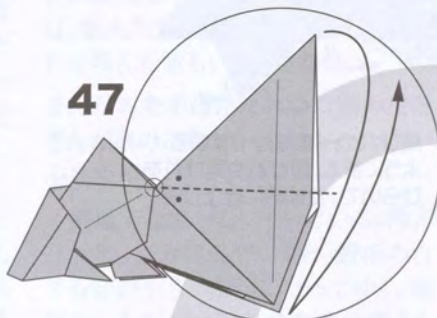
図のような折り目で
ななめに段折り

44



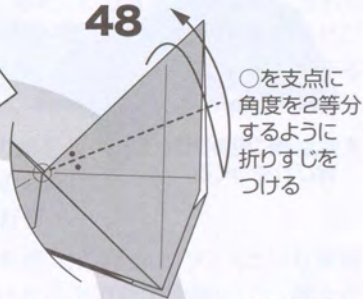
ぐらい折り

47



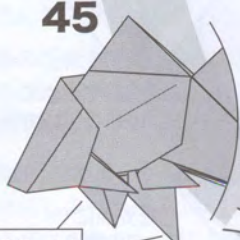
○を支点に角度を
2等分するように
折りすじをつける

48



○を支点に
角度を2等分
するように
折りすじを
つける

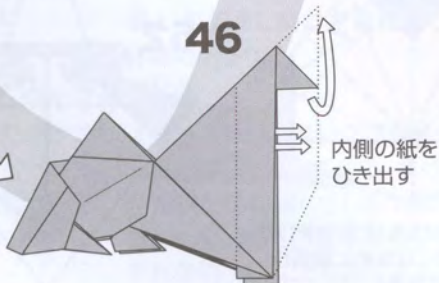
45



35-44

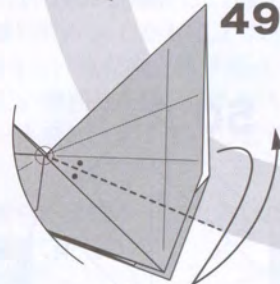
反対側も、
図35～図44と
同じように折る

46



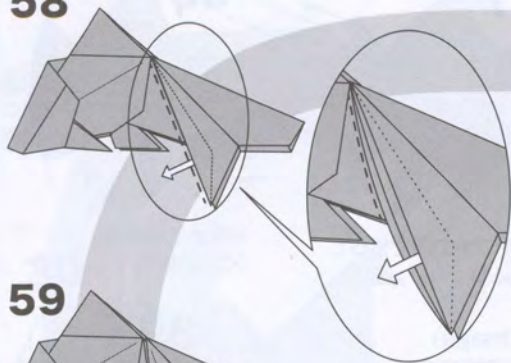
内側の紙を
ひき出す

49

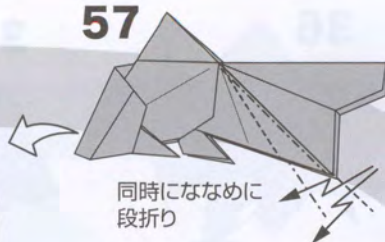


○を支点に
角度を2等分
するように
折りすじをつける
(次の図はひらいた所を
下から見る)

58

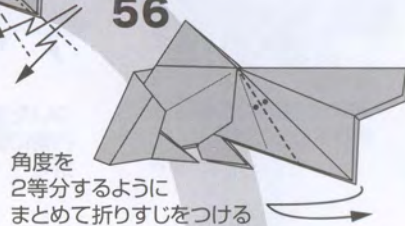


57



同時にななめに
段折り

56



角度を
2等分するように
まとめて折りすじをつける

59

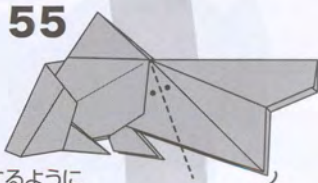


反対側も
図58と同じように

58

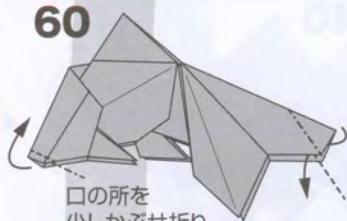
かくれているカドをひき出して
ひっくり返すように「谷折り」
(拡大図を参考にして、
ひき出す所に注意。
最後の「谷折り」も忘れずに)

55



角度を
2等分するように
まとめて折りすじを
つける

60



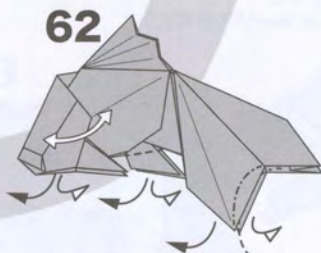
口の所を
少しかぶせ折り。
尾びれの所を中わり折り
(どちらもぐらい折り)

63



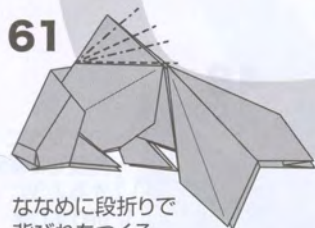
できあがり

62



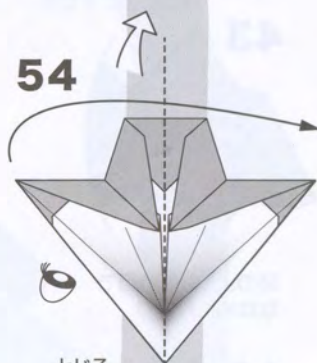
尾びれの一部をカーブする
ように折る。腹びれや尾びれを
ひらいて、立体的に仕上げる

61



ななめに段折りで
背びれをつくる

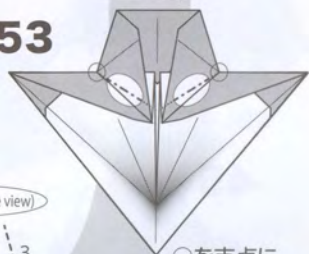
54



とじる
(次の図は横から見る)

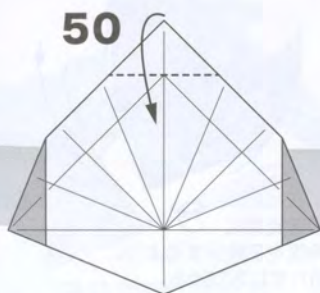
透視(The inside view)

53



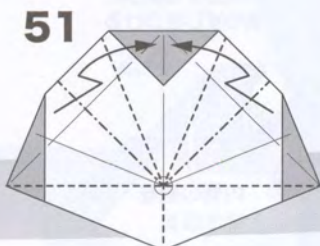
○を支点に
山折り(計2か所)

50



ついている折りすじで折る

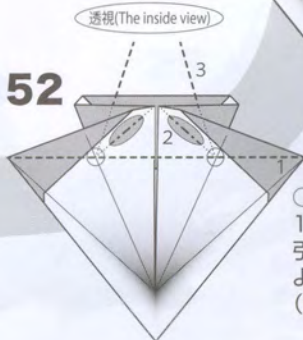
51



これまでについた折りすじで
○を支点にななめに段折り
(立体的になる)

透視(The inside view)

52



○を支点に
1~3の順に
引きよせる
ように折る
(計2か所)

折紙歌合

一折り紙が詠み込まれた短歌と俳句一

Origami Utaawase Match: Waka and Haiku with Origami

前川 淳

Maekawa Jun

短歌や俳句を自分で詠む(つくる)ということにはなかったのだが、それらを読むことは以前から好きだった。折り紙が詠みこまれた歌や句もいくつか集めていたのだが、最近、ぽつぽつと自分でも短歌をつくるようになって、そのアンテナもすこしだけ感度があった。今回は、そうした歌や句を紹介する。ただ、涉獵したわけではなく、偶然出会ったものたちなので、秀歌、秀句はもっとあるに違いない。見つけたひと、詠んだひととは、ぜひ知らせてほしい。

まずは、服部真理子さんの一首から。

白木蓮(はくれん)に紙飛行機のため
しいがゆっくり帰ってくる夕まぐれ

服部真理子

たしかにハクモクレンの花は紙のようだ。花の開花というのは、ずっとその経緯を見つめているのはまれなので、突然に感じる人が多い。そしてそれは、来訪のようにも、なにかが帰ってきたようにも思える。服部さんは、そこに、あの日どこかに飛んでいった紙飛行機の帰還を見た。

いっぽう、花が紙に見えてしまったことが、陰鬱な感情に結びつくこともある。次の歌は、折り紙を詠んだものではないが、なにかもが偽物に見えるこんな日々もあるだろう。

うめの花紙屑めきて枝に見ゆわれのこ
ころのこのごろに似て

若山牧水

紙屑である。考えてみれば、飛んでいった紙飛行機も、天がけて天上のものとなったり、たましいとなって清澄なものとなったのではなく、じっさいには、次の歌のように紙屑になっている。

紙ヒコーキが日に日に紙に戻りゆく乾
ける落葉だまりの上に
花山多佳子

朽ちていく紙飛行機はさびしい。花山さんは、それが気になりながら、毎日目の端で見ている。服部さんの歌も、幽明の境をさまよう紙飛行機であり、もっと、軽やかに飛んでいく紙飛行機はないのか。次の歌がそんな歌かもしれない。

遠ざかる紙ヒコーキの航跡をなぞる
がごとく飛びおりた君

杵野浩一

飛び降りた!大丈夫か、とも思うが、この歌には青空が見える。杵野浩一さんは、現在最も活躍している歌人で、漫画家の河井克夫さんと、(顔が似ているというだけで)「金紙&銀紙」というユニットを組んだというエピソードもある。そして、金紙と銀紙という言葉は、歌人たちの琴線に触れるらしく、これを詠んだ歌もいくつかある。

ぎんがみを手はたたみつつ霜の夜を
ぎんがみのこ系小さくなりぬ

小島ゆかり

銀紙でなにかをつくっている。冷え込む夜。畳み込んでいくと、銀紙のたてる音が小さく微かになってゆく。銀紙というモノには、その言葉の響きもあって、どこか特殊な力も感じる。こんな歌もある。

弟よ 目覚まし時計を銀紙でくるめ夏
休みの始まりだ

穂村弘

紙で音は遮れないだろうが、銀紙が一種の結界となっている。すべての光や視線を跳ね返してしまう鏡のような魔法の紙。魔法の紙であるがゆえに、それを切り裂くことも詩になる。

銀紙を裂いてあげますやさしくて狂い
そうです野蛮なんです
村上きわみ

そう、紙を破くのは野蛮です。そして、金紙。それは、銀紙以上に特別かもしれない。折り紙用紙のパックの中に数枚、多くの場合一枚だけ忍んでいたそれを、いつまでも使わずに取っておいたという子供時代の記憶を持っているひとも多いのではないだろうか。いまでは100枚入りの「単色おりがみ・金(銀)」が500円(ふつうの折り紙の2-3倍は高いとは言え)で買えるが、それがなかった時代、金紙はほんとうに貴重だった。

ほしいのは勇気たとえば金色のおりが
み折ってしまえる勇氣

天野慶

つましいが、よくわかる。天野さんは、あえてこの言葉を使うと「女性らしい感性」にあふれた歌を詠むひとだが、現代短歌におけるその元祖である歌人にも、折り紙を歌った歌がある。

折り紙を並べたような水田に川は鋭き
銀のおたけび

俵万智

ただ、この歌では、フェミニンな叙情ではなく、折り紙を比喻にして、雄大な景色を詠じている。しかも目立つ色は銀だ。清々しい風が吹き抜ける。いっぽう、妖しい雰囲気醸し出す現代短歌の第一人者といえ、このひとである。

少年のからだは鉄ゆつくりと青い折り
紙切り裂いてゆく

林あまり

折紙者にとっては、ハサミはカタキでもあるので、切り裂くイメージは恐ろしい。



おりがみうたあわせ

折紙歌合

一折り紙が詠み込まれた短歌と俳句一

Origami Utaawase Match: Waka and Haiku with Origami

前川 淳

Maekawa Jun

一般的な折り紙の印象は、この歌とは大きく異なって、nurseryなものである。nurseryは、nurse(看護師)に関連する言葉で、託児所、保育園、子供部屋の意味だが、nursery rhymeという童謡のことで、慈しみ見守るというニュアンスがあり、nurseには授乳の意味もある。つまり、「乳臭い」ということだ。nursery nurse(保育士)という言葉はとても変だと思うが、この繰り返しもまた、幼児の喃語(なんご:まだ言語とはいえない音声。ばぶばぶの類)みたいで面白い。次の歌もシンプルに見えるが、評者の穂村弘さんが指摘するように、実は技巧的で、「っこ」や「お」の繰り返しなどがnurseな雰囲気を出している。

おいっここの小さな指にやっこ折り教えてわたしおばさんになる

市川綾子

市川さんは、穂村弘さんの著書『はじめての短歌』の編集者で、この歌は、そのあとがきにあるものだ。勘所は「おばさんになる」ことの両義性、つまり、うれしさと、あれ歳とっちゃったということだろうが、歌柄(うたがら)は、とてもnurseだ。次の歌もそうである。

折り紙で牡丹を折って見せる子の粘る
青っ洩ママンは拭くの
本下いづみ

本下さんは絵本作家である。ここに描かれている「牡丹」は、薄い紙を輪ゴムなどで束ねたのちに広げ、運動会の飾り付けなどに使う「紙花」のことだろう。折り紙とはすこし違うもので、つくるのはそう難しくもない。青っ洩を拭かれる幼児が、カワサキ・ローズ的な作品を折っていたりしていたら、それはそれで意外で、また面白い。一心不乱にそれをつくる子供の鼻を拭く母親がnurseな感じだが、「ママン」と

称されることで教育ママ的な気取りも描かれている。以上、nurseな歌をふたつ紹介したが、次は、これらとは、ほど遠い歌である。

おりがみを折るしか能のないやつに
足先から折られはじめる

吉岡太郎

折紙者としては、「喧嘩売ってんのか?!」という歌である。わたしも思わず、「みじかうた詠むしか能のないやつに頭の上から言葉の箍(たが)締め」という「もじり」を考えた。しかし、不思議に魅力的な歌でもある。水木しげるさんの『ゲゲゲの鬼太郎』で、鬼太郎がぺちゃんこになって反物のようにくるくると巻かれるシーンがあったのを思い出した。イギリスの小説家・イアン・マキューアン氏に、紙を特定の方法で折り畳むと消えてしまうという話から、ひとが消えてしまう話になる『立体幾何学』という短編小説があったことも連想した。こうした折り紙の魔術性、そして、そこから生じる一種の不穏さを詠む歌は、他にもある。

鶴を折る元旦の個人儀式なり生け贄
のごとく一羽飛べずに
九螺ささら

元旦に折鶴を折るだけなら、なにやらゆかしい感じだが、生け贄となると穏やかではない。生け贄なので飛んで逃げることもできない。そもそも、折鶴は飛んで逃げたりしない。折鶴を詠んだ次の俳句も不気味だ。

帰り花鶴折るうちに折り殺す
赤尾兜子(あかおとうし)

帰り花というのは、季節をたがえた、桜や梅などの狂い咲きのことである。俳句には「切れ」というものがあり、この句もここで切れる。そして、狂い咲きのイメージを残して、折鶴が描写され

る。鶴を折っているうちに、折りかたがわからなくなったのか、「折り殺して」しまった。残ったのは、鶴であったかもしれない残骸だ。新しい作品を考えているときの折紙者にとっては、紙を折り殺すのは日常かもしれないが、ここで鶴を折り殺してしまったひとは、たぶん、呆然としている。さらに不気味な歌もある。

おびただしき鶴の死体を折る妻のうしろに紅の月は来りき

小池光

ホラー映画である。折り殺すものにも、折鶴は、もともと生きていない。いずれにせよ、たぶんだれかの見舞いのために折っている折鶴を、鶴の死体と言いきるのはあんまりだ。

折り殺された紙のかたまりが「鶴であったかもしれない」とも書いたが、そもそも折鶴はどこが鶴なのかという問題もある。うしろの突起は、揃えて伸ばした脚なのか、尾なのか、そのなものでもない、世界に向けたなにかの切っ先なのか。

疑わずみな鶴と見る折り鶴は現実の鶴には似ていない

松本秀

折鶴はツル目・ツル科の鳥ではない、抽象的なツルという鳥なのだろうが、言われてみればもっともな歌である。逆にというか、別のものが折鶴に似ていると見られることもある。

ベビーカーは折り鶴に似て児を拐ひとぶやもしれず枷鎖購ひにゆく

光森裕樹

翼のようなものがあるベビーカーというのは想像つきにくい、光森さんには、ハンドルが長い首に、フードがふくらんだ胴体などに、それが折鶴に見えたのだろう。「枷鎖」は、囚人の

○前川 淳(まえかわ・じゅん)＝折り紙と、短歌、俳句は、強い制限の中での表現ということで、似ているところがあると思っています。
版画：鳥海太郎



足につける大きな鉄の玉のイメージである。ベビーカーが飛ぶと、親はパニックになるだろうが、乳児はにこにこ笑ったままかもしれない。そうした想像がより不安をかきたてる。折鶴の歌は、なぜか不安を誘う歌が多い。そういう歌ばかりわたしの印象にのこっているということなのかもしれないが。

気持ち悪いから持って帰ってくれと父
色とりどりの折り鶴を見て
東直子

ひどいな、東さんの父君。色があまりに多彩なので、リアリズムからずれて気持ち悪いということか。それとも、折鶴そのものが不気味ということだろうか。中村草田男(くさたお)さんの俳句の父親は、たぶん娘の折った折鶴を欲しがっているというのに。

梅雨の夜の金の折鶴父に呉れよ
中村草田男

ここでも金紙であるのがミソであろう。この句はほのぼのとしているが、次の歌は、作者が26歳でインフルエンザをこじらせて早逝したという事実も相まって、こころがざわつく。

折鶴の羽をはさみで切り落とす私にひそむ雨の領域
笹井宏之

小池さんの歌にも似て、なにかの呪いの儀式のようだ。折紙者の観点では、切り落とすのは、平坦に折り畳まれた辺が一直線に集まった構造(折り紙設計でいう「一直分子」)のかたちを確認する行為でもあるので、彼は折鶴の幾何学を解説しようとしているだけである、という解釈も可能であるが、まあ、そんなはずもない。なお、折鶴の幾何学性を詠んだ俳句もなくはない。

折鶴の多面多角に夏の月
宇多喜代子

わたし自身は、こういう透明感のある句や歌も好きなのだが、笹井さんのような歌も気になる。笹井さんには、もうひとつ折鶴の歌がある。

折り鶴をひらいたあとにおとずれる優しい牛のようなゆうぐれ
笹井宏之

羽をひらいて完成させるという意味かもしれないが、ここでは、すべての折り目をひらく意味ととる。折り目をひらくのも、展開図の構造を確認する行為だが、切るよりは平穏だ。ひらくだけなら「優しい牛のようなゆうぐれ」も訪れる。紙に戻るということでは、こんな無季俳句、川柳もある。

折鶴は紙に戻りて眠りけり
高橋修宏
折鶴のほどかれてゆく深夜かな
石部明

一句目は、平坦な紙に戻るというより、そのかたちのまま眠るイメージだが、二句目は、ほどかれていく。本稿の冒頭から三番目に紹介した紙飛行機の歌も、紙に戻っていった。そしてたぶん、燃やされる。

短日のどの折鶴もよく燃える
西原天気

折鶴に込められた念というのは、扱いが難しく、もらった場合、それをどう扱うかには悩む。

折紙の鶴の処分にもまた困る
池田澄子

池田さんの無季のこの句も実感なのだが、わたしは、千羽鶴は、西原さんの句にあるように燃やせばよいと思っている。初冬の傾いた陽射しの中で燃える折鶴。折り殺された紙も燃やすか、広げて束ねて資源にすればよい。煙になった紙、ほどかれた紙も、紙飛行機が木蓮の花となって戻ってきたよ

うに、巡り巡ってまたどこかで紙になり、折り紙になって、わたしたちを慰める力となるかもしれない。

朝比奈の紋を十づゝ十よせて百人力の鶴の紋なり
秋里籬島

ご存知『秘傳千羽鶴折形』(1797)の最後の作品「百鶴」に添えられた歌で、次のような意味である(以下の解釈は、岡村昌夫さんの『つなぎ折鶴の世界』の解説を参照した)。

まず、朝比奈とは、怪力無双の豪傑と伝えられる朝比奈三郎義秀のことである。彼は歌舞伎でも人気者で、本来の家紋は違うものだったが、役者が鶴の紋で演じたのが有名になった。この歌はつまり、鶴が百羽で、百人力というそれだけの歌なのである。ただし、『伊勢物語』の次の歌の本歌取りでもある。

鳥の子を十づゝ十は重ぬとも思はぬ人をおもふものかは (『伊勢物語』)

鳥の子は卵のことで、たとえ卵を百個積むことができて、好きになれないひとは好きにはなれないという意味だ。「累卵の危うき」という表現もあるように、卵を重ねることは困難を意味する。この歌は、できそうもないことができて嫌なものは嫌と歌う。それはそれで正しい。いっぽう、「朝比奈」は、それをほぼ反転させ、鶴百羽で元気いっぱいだぜ、百人力だぜ、おめでたいぜ、という能天気な歌になっている。折鶴は一種の呪物なので、上に見てきたようにたしかに不気味なところもある。しかし、見かたを変えれば、やはりそれは、めでたく、明るく、たのしく、百人力なのである。

折鶴はけつの穴から活つを入れ (『俳風柳多留』)

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

三谷 純

Mitani Jun

63冊目 『計算折り紙入門』上原隆平著

“Introduction to Computational Origami” by Uehara Ryuhei

本書は、著者である北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)の上原隆平教授ご自身が、これまでに取り組んできた計算折り紙に関する最新の研究成果をとりまとめ、わかりやすく丁寧な解説を試みた手引書となっています。

では、タイトルにもある「計算折り紙」とは、いったいどのようなものでしょうか。折り紙という語が含まれますが、日ごろ折り紙に興味を持たれている本誌の読者のみなさまにとっても、あまり聞きなれない用語であると思います。本書によると、計算幾何学(Computational Geometry)の一分野として、1990年代に「多面体と、それを折れる展開図」の研究が始まったことをきっかけに、「折り」を基本操作とする問題全般を研究対象として Computational Origami という表現が用いられるようになり、それを和訳したものが「計算折り紙」であると紹介されています。

一般的に、私たちが「折り紙」という単語で想像する、正方形の紙から折り鶴や兜のような具象物を折り出すものより対象は広く抽象的で、「折る」という操作に関するものを、幾何学的な視点、または、アルゴリズム(計算量)といった視点から捉えようというもので

す。

1990年代という記述があるように、学問分野として見れば、その歴史はまだ浅いものですが、巻末の参考文献の一覧を見れば、その目覚ましい発展ぶりを垣間見ることができます。

本書は大きく4つの構成に分かれていて、それぞれ、展開図入門、展開図のアルゴリズム、折りのアルゴリズムと計算量、発展問題になっています。

まずは、「第II部 展開図のアルゴリズム」で取り上げられている具体的な例を紹介しましょう。本書で取り上げられている多くのトピックの中でも、この分野の研究の先駆けとなったものに、「複数の直方体が折れる展開図」の問題があります。これは、正方格子上的1つの多角形で複数の直方体が折れるものが存在するだろうか?というものです。

答えはYesです。

そして、著者が見つけた例として、図1の展開図が紹介されています。

図1の(1)の折り目で折ると大きさが $1 \times 1 \times 5$ の箱が、(2)の折り目で折ると大きさが $1 \times 2 \times 3$ の箱が折れます。図2は、実際に展開図を折って異なる2つの直方体に折りあがる様子を、私がCGで表示してみたものです。

さて、このように複数の直方体が作れる展開図は他にもあるでしょうか? 詳細は本書を見ていただくとして結果だけ紹介すると、異なる2つの直方体を作れる展開図の最小面積は22で、このときに作れる直方体は $1 \times 1 \times 5$ と $1 \times 2 \times 3$ のものであり、その展開図は全部で2263個であると結論づけられています。

図1のように、同じ展開図の形から、異なる直方体を作れる場合がある、という事実に対し驚かされますが、それが面積22のものに限っても2263個も

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/>にアクセスしてください。

ある!ということには、もっと驚かされます。実は、私自身も本書の著者と共同でこの問題に取り組ませていただき、論文誌『折り紙の科学』に「2種類の箱を折れる展開図に関する研究」として発表しています(ちなみに、この論文は『折り紙の科学』の記念すべきVol.1, No.1の最初の論文となっています)。

話が脱線しますが、この原稿を書かなくては…、と思っていた時に、図1の展開図が2017年12月16日に実施された海陽中等教育学校の特別給費生入試の算数の問題に取り上げられた、ということを知りました。インターネット上に公開されていた、設問は次のようなものでした。

次の図は1辺5cmの正方形をつなぎ合わせた図形です。これを、どの正方形も重なることなくうまく組み立てると、体積の異なる2種類の直方体を作れます。それぞれの直方体の体積をもとめなさい。ただし、点線以外で折ってはいけません。

この問題とともに掲載されていた展開図は、まさに図1の左側の展開図です。

試験中に、受験生から「問題用紙を切り取っていいですか?」という問い合わせが出たりしなかったらどうかと気になりますが、実際に折ることは要求されていないので、次のような考え方で

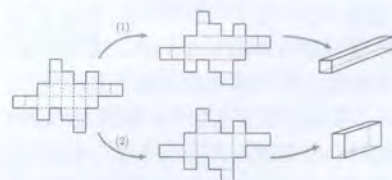


図1: 本書で紹介されている、2つの直方体が折れる展開図(本書p.27より引用)



近代科学社、2018年刊

○三谷 純(みたに・じゅん)=1975
年静岡生まれ。筑波大学大学院シ
ステム情報系教授。コンピュータグ
ラフィックスに関する研究に従事。



答えは簡単に求まります。

解答例(本原稿執筆者による):直
方体の3辺の長さを自然数 a, b, c ($a \leq b \leq c$)とすると、直方体の表面積は
 $2(ab+bc+ca)$ である。展開図のマス
目の数を数えると22であるから、
 $ab+bc+ca=11$ である。このような値
になる a, b, c の組み合わせは(1,1,5)と
(1,2,3)しか存在しない。それぞれの
体積は $1 \times 1 \times 5=5$, $1 \times 2 \times 3=6$ であ
る。

さらに脱線しますが、図1で紹介した
展開図は多くの人の関心を集めて話
題になり、ライトノベル『浜村渚の計算
ノート 4さつめ 方程式は歌声に乗っ
て』(講談社文庫)のキーアイテムにも
なっていて、同じ型紙から体積の異なる
箱が作れることが、ストーリー上の大
きな役割をしているとのことでした。

さて、もうひとつ興味深いものとして、
本書の「第IV部 発展問題」で取り上げ
られている、レブ・キューブというもの
を紹介しましょう。

図3の左側に示す展開図は、白と黒
のT字型が2つくっついていて、1つの
T字は、おなじみの立方体の展開図で
す。これが2つくっついたものを、図中
の点線で折ると、1辺の大きさが $\sqrt{2}$ の
立方体(図3の右側)ができます。このよ

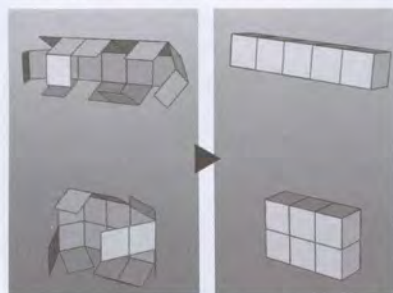


図2:2通りの直方体が折りあがる様子

うに、立方体の展開図をいくつかの図
形に分割した時に、その分割後の図形
も立方体の展開図となっている、とい
う特徴があり、これを著者がレブ・キュー
ブと名付けました。まだ2016年に生ま
れたばかりの概念だそうです。

これもなかなか楽しい特徴をもった
図形です。図3と同様に、2つの合同な
立方体の展開図に分割でき、なおかつ
折りたたむと一辺が $\sqrt{2}$ になる展開図
は、図4に示す17通りあることが示さ
れています。

これ以外にも、たとえば4つの立方
体の展開図に分解できるもの(次数

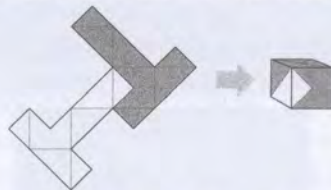


図3:次数2の一樣レブ・キューブの例(本書
p.165より引用)

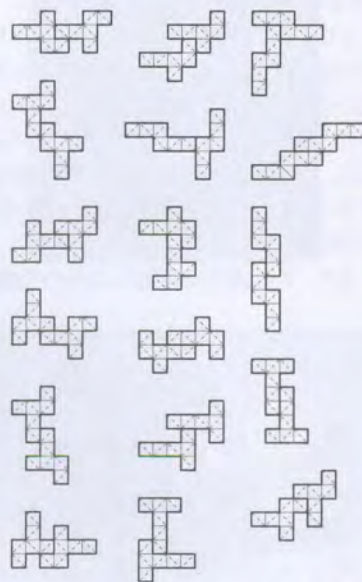


図4:正則で一樣なレブ・キューブで、次数2で
面積が12であるもの(本書p.171より引用)

4)、大きさの異なる立方体の展開図に
分割できるもの(正則でないもの)、展
開図の形が異なるもの(一樣でないも
の)、などバラエティーに富んだレブ・
キューブの例が紹介されています。

これらを見ていると、まるで図形パズ
ルの問題を見ているような気がします。
それもそのはず、著者はパズル作品の
展示を行っているJAISTギャラリーの
館長を務め、パズル界では名の知れた
パズルコレクターとしての一面も持つ
ているのです。そのためか、本書にはパ
ズル的な問題が随所に現れ、本書を通
して、パズルと折り紙の密接な関係
を感じ取ることができるようになってい
ます。

また、本書では未解決問題もたくさ
ん紹介されています。たとえば「どん
な凸多面体でも、必ず辺展開図(辺を切
り開いて作った、自己交差を持たない
展開図)をもつ」という命題が、まだ未
解決であることを紹介しています。問題
の意味を理解することは容易ですが、
証明はとてつもなく難しいようです。

本書のタイトルには「入門」という言
葉が含まれますが、対象はかなり専門
的な分野だと言えるでしょう。著者が
これまでに論文という形で発表してきた
内容を1冊の本にまとめたもので、難し
い論文(ほとんどは英語)を、この1冊で
まとめて読むことができる、お得な構成
となっています。本書を通して、「新しい
概念を定義し、それに関する問題を提
起し、そしてそれを解く」という、まさに
新しい研究分野が切り開かれてきた道
のりを見てとることができます。

本書は、2018年6月に出版されたば
かりであり、今まさに広がりつつある、
「計算折り紙」の、現時点での到達点
を理解するのに最適の書と言えるで
しょう。

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

第37回 題名は大切に

Don't Underestimate a Model's Name

美学者のジョン・フィッシャーは、芸術作品の題名を、解釈の過程における道標とみなしています。同様に、哲学者のジェロルド・レビンソンは、作品を通じて受けとる刺激の知覚が題名によって導かれると述べています。

簡単に言えば、題名によって、私たちは創作者の意図に近づくことができます。つまり、創作されたものを、創作者が意図したように見ることができるのです。

描写的な折り紙や幾何学的折り紙では、言語哲学でいう「指示」という概念が役立ちます。指示とは、記号とそれが表しているものとの関係です。折り紙作品が表しているものは、作品の指示対象だと言えます。

伝承作品を含め、多くの折り紙作品の題名は、記述的です。つまり、指示対象を言葉で表しています。言い換えれば、題名はその作品が「何であるか」を記述しています(図1)。しかし、そうでない作品もあります。

まず、キャラクターを折った作品で



図1: ロマン・ディアス「ヒポカンパス」(制作: アンドレス・ロザノ)

は、その指示対象と異なる題名がつけられることがよくあります。これはある種の言葉遊びになります。作品が実際に表しているものを皆が知っているのに、題名は、それとは異なる何かを表していると伝えるからです(図2)。

また、現代の折り紙作品には、特定の人物、ペット、場所などに捧げられたものがあります。例えば、ダイアナ・バルガスのユニット作品(図3)は、彼女の姪にちなんで名付けられました。

★トリビア1★

作品の題名には創作者の意図が込められている

さらに、作品に注意をひくための「マーケティング」戦略であるような題名もあります。創造的な題名のついた作品を見ると、題名に関連する様々な考えに思いを巡らせることになります(図4)。

ところが、テセレーションやユニット折り紙のほとんどは、幾何学的でありながら特定の指示対象を表しません。そのため、例えばデビッド・マルティネスは、人々が忘れがちな価値や資質をテセレーション作品の題名としています(図5)。

また、それまでに存在しなかった指



図2: フェルナンド・ヒルガド「古代のリス」(制作: アティラ・ユルトクル)

このコーナーでは、折り紙に関連した幅広いトピックを探索して、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

ジェラルド・ガチャルナ・ラミレス
Gerardo Gacharná Ramírez

翻訳: 羽鳥公士郎

Translation: Hatori Koshiro

示対象を描写的に表した作品もあります。これは新たな指示対象を生み出します。例えばビクトル・クルジョリは、私たちの知覚をかどわかすような作品を創作しています(図6)。

一方、実用的な折り紙作品は、指示対象を表すのではなく、実際のもので折り紙で作ります。折り紙のランプシェードは、ランプシェードを想起させるのではなく、それがランプシェードなのです。

実用作品では、それが何であるかが自明でないことがあります。筆者の「花咲く蓋の八角形の入れ物」(図7)は、題名がなかったら装飾品と誤解されるかもしれません。有用な作品を創作するときは、それをどのように使うかを示すような題名をつけることになるでしょ

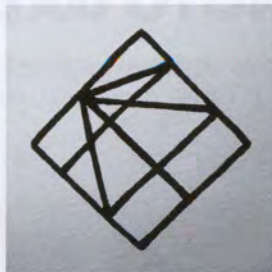


図3: ダイアナ・バルガス「ジュリアナ・スター」



図4: -sebl-「峰々に登れ」(制作: アティラ・ユルトクル)

○Gerardo Gacharná Ramírez
(ジェラルド・ガチャルナ・ラミ
レス) = コロンビアのボゴタ生
まれ。2010年から本格的に折
り紙に取り組み、これまでに70
以上の作品を創作した。主に実
用作品に興味を持ち、2013年
に『Practigami』を出版した。ま
た、ブログ「Neorigami」([http://
neorigami.com](http://neorigami.com))を運営してい
る。



○羽鳥公士郎(はとり・こうしろう)
= 1972年東京生まれ。東京
大学で修士号、ジョージワシ
ントン大学でM.A.を取得。翻訳家
(IT関連)、折り紙アーティスト。
日本折紙学会評議員。折り紙関
連の訳書に『Genuine Origami』
(英訳)、『ドクター・ハルの折り
紙数学教室』(日本語訳)などが
ある。



う。

もっとも、伝承の「箱」のように、題名
がなくとも用途が明らかな実用作品も
あります。さらに、実用的かつ描写的な
作品もあります(図8)。

以上のように、創作者は自身の意図
をよく考えた上で作品に題名をつけ
ています。ところが、現在の折り紙界で
は、題名の可能性を損なうような実践
が見うけられます。

まず、コンベンションの展示などで、
作品のラベルがない場合があ
ります。これでは、作品から創
作者の意図がはぎ取られてし
まいます。展示において、鑑賞者と作
品との関係を完成するには、作品のラ
ベルが必要です。

第二に、折り紙を教える講師や雑誌
や本の編集者が、作品の題名を変えて
しまうことがあります。例えば、ナティ・
ネフェシュの「力と運命のリング」(図
9)が、コンベンション折り図集の編集
者によって「リング」と変えられたこ
とがありました。作品の同一性が損なわ
れないようにするために、創作者がつ
けた題名のみを使用すべきです。

第三に、筆者はスペイン語圏に住ん
でいるのですが、スペイン語で話して

いるときに英語の題名を訳さないこと
が多くあります。しかし、相手と共通の
言語を用いなければ、作品と観賞者との
関係における題名の役割が達成され
ません。

それに関連して、スペイン語圏の折
り紙作家が、作品をスペイン語圏で
発表するにもかかわらず、英語の題名
をつけることがあります。外国語で題
名をつけることは、ある種の俗物根性
の現れであり、多くの人にとって折り紙

をわかりにくくすることです。

創作者は、自身の作品に題名をつ
けるという行為の深さを理解するべき
ですし、他の折り紙人はその題名を尊
重すべきです。そうすることで、折り
紙に対する一般の人の認識も深まる
でしょう。折り紙人自身が作品の題名
を尊重しなければ、どうして一般の人
が折り紙を子供じみた気晴らし以上の
ものと評価するのでしょうか。

★トリビア2★ 題名を尊重することが折り紙の価値を高める

注:この記事は、OrigamiUSAの
オンラインマガジンThe Fold
に掲載された記事"Would a
Kawasaki Rose by Any Other Name
Smell as Sweet?" ([https://origamiusa.
org/the-fold/article/editorial-would-
kawasaki-rose-any-other-name-smell-
sweet](https://origamiusa.org/the-fold/article/editorial-would-kawasaki-rose-any-other-name-smell-sweet))の短縮版を翻訳したものです。



図6: ビクトル・クルジョリ「Treer」



図8: ビクトル・ホアレス・クインテロ「箱の
ような体の白鳥」(制作: ルイ・ロダ)

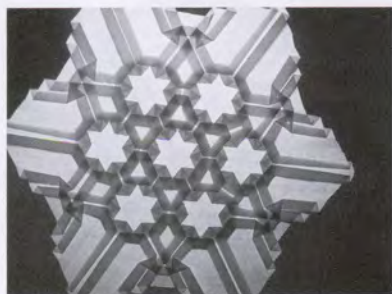


図5: デビッド・マルティネス「友情」



図7: ジェラルド・ガチャルナ・ラミレス「花
咲く蓋の八角形の入れ物」



図9: ナティ・ネフェシュ「力と運命のリング」
(制作: ルイ・ロダ)

今号の折り図・展開図掲載作品より

解説：北條高史 (P.20-21)

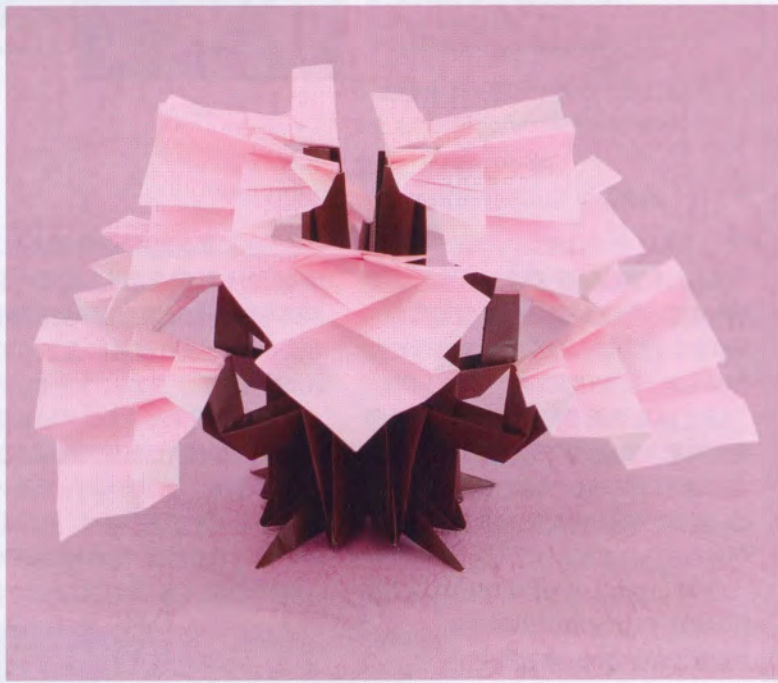
Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojo Takashi (P.20-21)

「樹 自由自在(山桜)」

作：川崎敏和(P.4)

Tree free and easy! (Wild Cherry Blossoms):
Kawasaki Toshikazu (P.4)

■本誌153号に掲載された「バオバブ」と異なる印象の幹は、いろいろな枚数での制作を許容する構造。好きな方向に向かっていくだけでも増殖、花や葉をどんどん茂らせてゆくことが可能です。

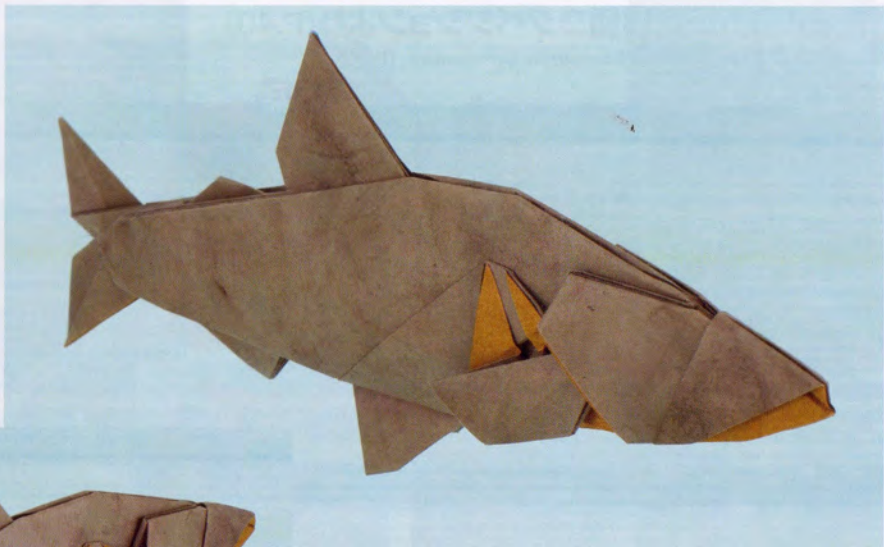


「琉金」作：稲吉秀尚(P.8)

Ryukin (A Goldfish):
Inayoshi Hidehisa (P.8)

■優雅になびく大型の尾びれが印象的。ひとつひとつの部品を微調整したり、展示する角度を変えるとさまざまな表情があらわれてきます。どのような場所に置くと意外性のある展示になるだろう？ と考えると、いろいろなアイデアが浮かんで楽しくなってきます。

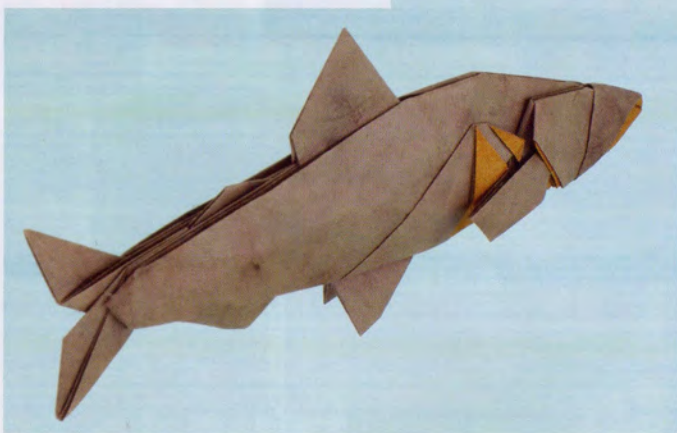




「鮎」作：富永和裕(P.26)

Ayu (Sweetfish): Tominaga Kazuhiro (P.26)

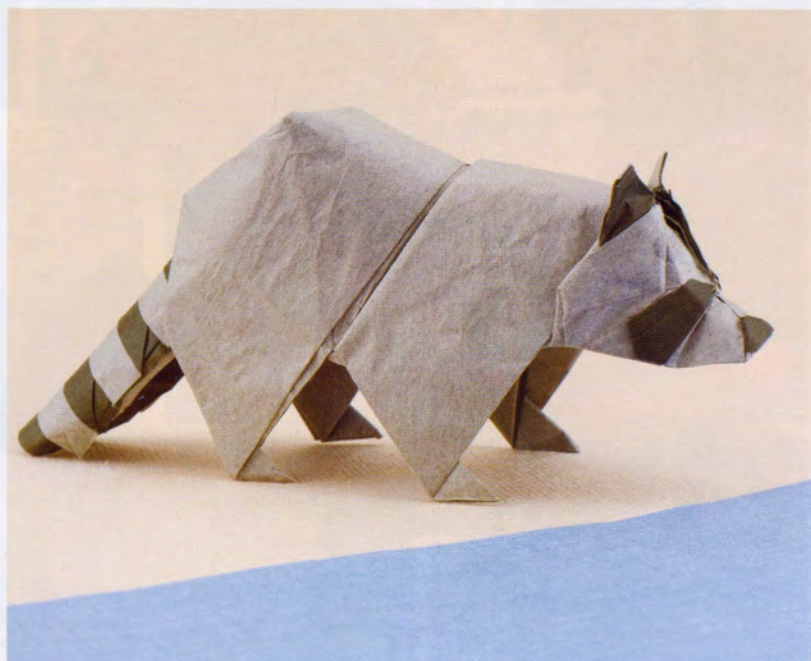
■余計な線を極力減らしてすっきりとしていながら、同時に筋肉の張り・敏捷性をイメージさせる胴体。体側の模様部分や頭部下方には用紙裏面の色が出ていて、作品を引き締める重要なアクセントになっています。



「アライグマ」作：森澤碧人(P.38)

Raccoon: Morisawa Aoto (P.38)

■模様折り出しが困難で挑戦し甲斐のある題材のひとつ。これまでも同じテーマで複数の作家による先例があり、そのときどきの最先端技術を味わうことができたことと記憶しています。今ここでさらに、構成の妙に唸られる展開図に出会えるとは…。



第24回折紙探偵団コンベンションより(P.40)

From the 24th Origami Tanteidan Convention (P.40)

講演会



Paul Jackson



Paolo Bascetta

講習作品



Takeuchi Kei



Nakamura Kaede



Nishikawa Seiji



Hojo Takashi



Maekawa Jun



Kobayashi Hiroaki

講習には、コンプレックスから実用ものまで様々な作品が集まった



Maeng Heung Gue & Lee In Seop

講習風景



Mitani Jun



Kamiya Satoshi

懇親会

料理は食べきれないほど並んでいた



ビンゴでかき氷機が当たってしまった、遠方在住の櫻木幸子氏(右)



第12回JOAS創作折り紙コンテスト



おりがみはうす賞
テーマ無し(自由題)

「陸ガメ(アラウンドビューバージョン)」今津清治



Imazu Kiyoharu



Kobayashi Hiroaki

JOAS賞 干支部門「いのしし」:
「うり坊」小林弘明



Toyomura Takashi

参考出品:「猪」
豊村高志

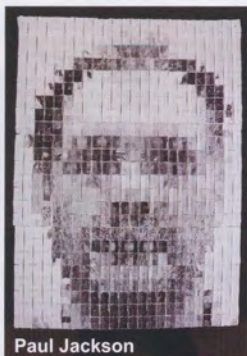


JOAS賞
特別テーマ部門「風」:
「風神」北西一貴
Kitanishi Kazuki

展示作品



Paolo Bascetta



Paul Jackson



Maeng Heung Gue



Lee In Seop



Kobayashi Hiroaki



Yokomae Shunya



Miyamoto Shintaro



Hashimoto Haruka



Katsuta Kyohei



Kobashi Kiyotaka



Minamijima Kazuhide

ICOA東京展コンテスト中間発表



Katsuzaki Yuta



Nakamura Kosuke



Hashimoto Haruka



Okawa Hiroshi



北條高史賞
佳作「人魚」
Imai Yudai



Tamura Tomoki

※川畑文昭賞について：閉会式の結果報告では受賞作を「アリス」と発表しましたが、運営側のミスがあり、正しくは「アライグマ」でした



Morisawa Aoto



Sekine Takeshi

西川誠司賞
佳作「バギー」

第9回韓国折り紙コンベンションより(P.41)

From the 9th Korea Origami Convention (P.41)

講習風景



▲作品について説明するPaul Jackson氏とそれに聞き入る若い参加者達

▲講習を行う今回の招待者、長山海澄氏(左)と橋本遼氏(右)

講習作品

Kim Jin Woo



Yoo Tae Yong



▲OrigamiATCの展示と韓国で普及活動をしているChun Hyun Sim氏

展示作品

▼1枚で折られているようだ



Kim Eun Ju

▲講習作品は、シンプル系・実用系・コンプレックス系と幅広い



Kim Dong Hyeon



▲北條高史氏の「摩虎羅大将」をきれいに折っていたHan Ji Woo氏

懇親会



▼4冊目になる今年の『ORIGAMI PRO』は、「World Ocean Origami」がテーマ



Jang Yong Ik

▲宮本宙也氏の「ヒロ」を折ったKim Jin Woo氏は、若手作家のまとめ役



▲料理の種類が豊富な韓国コンベンションの懇親会。お腹が一杯になったら、ゲストが相手の全員参加のじゃんけん大会、紙鉄砲早鳴らし競争、飛行機飛ばし大会といった、シンプルなゲームで盛り上がる



Jeong Jae Il



Park Jong Woo

▲このカバの頭部は、講習作品にもなっていた

折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of
Origami Tanteidan Tokyo Group



Imai Kota



Okahara Sachiya



Sekine Takeshi

折り紙ピック PAPER-alympic 展示作品募集 (P.41)

A Call for Models for ORI-mpic and PAPER-alympic Exhibitions (P.41)



Otani Mitsugu

▲2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピックに合わせて、2019年8月からの約1年間、おりがみはうすのギャラリーおよびJOASホールにて、オリンピック・パラリンピックの競技をテーマにした折り紙のジオラマ作品展示を行うことになった。現在、展示作品を募集中。詳しい応募要項は、P.41をご覧ください。

OrigamiATC研究会より (P.42)

Invitation to the Origami ATC Workshop (P.42)

ATCとは、アーティストトレーディング・カードの略。2.5×3.5インチ(64×89mm)のカードに好きなように表現して、交換するというもの。OrigamiATC研究会は、JOASホールで2ヶ月に1回程度開いている、折り紙を使ったATC愛好家の集まりです。8月11日の交換会のテーマはフリー(自由課題)。郵送参加23名、リアル参加20名で合わせて43名と盛況でした。

今回は10月14日(日)、郵送参加のカードは10月11日(木)必着でお送りください。テーマは「私のお気に入り」です。作品規定と郵送参加方法は右枠内を、直接の参加はP.42「JOASホール今後の予定」をご覧ください、お申し込みください。

▼8月の交換会に集まったカードから
テーマはフリー(自由課題)



「今日は朝顔市へ彼とおでかけ」森下文子・作／
使用作品:うちわ・ゆかた・りぼん=kamikey・作

「色の妖精」井斎きみか・作／
使用作品:妖精・花=自作



交換会場にて。普段お会いしない人たちの交流に、あちこちで笑顔が見られました

次回OrigamiATC交換会:2018年10月14日(日)
の郵送参加方法(10月11日(木)必着)

◆作品規定

- ・2.5×3.5インチ(64×89mm)で作成する。
- ・折り紙の要素を1つ以上入れる。
- ・定形郵送するため、厚みは8mm以下にする。
- ・テーマ:「私のお気に入り」
- ・裏面には、A.作品の題名と、B.作者名(ニックネーム可)、C.「使った折り紙作品の名前」、「創作作者名」又は「参考文献名とその著者名」を記入のこと。できれば、作成日や通し番号、コンセプトも書くことよい。

◆応募方法

- ・3～9枚のカードと、宛名(名前に「様」も)を記入して切手を貼った返信用封筒(長形3号)を同封し、おりがみはうすへ送付する。
- ・返信用封筒の切手は、3枚の場合82円、4～6枚の場合92円、7～9枚までの場合140円を貼ること。

▲この黒枠がカードサイズ

Origami Artist Trading Card

| |
|--|
| Title: 雨の音 |
| Theme: 音楽 |
| Name: hanako |
| HP, ブログ: おりがみはうす日記 http://ameblo.jp/hanako-origami/ |
| 作品について 折り紙の音と、作者名を記入 作品のテーマは「雨の音」です。 |
| カエル (山口 真・作) |
| 降りしきる雨の音をカエルが寝か入っている というイメージです |
| 2/12 |
| 2018年x月xx日 |

▲裏面表記の例

※長方形以外のカードを作る場合は、64×89mmにカドが内接するようにすること。

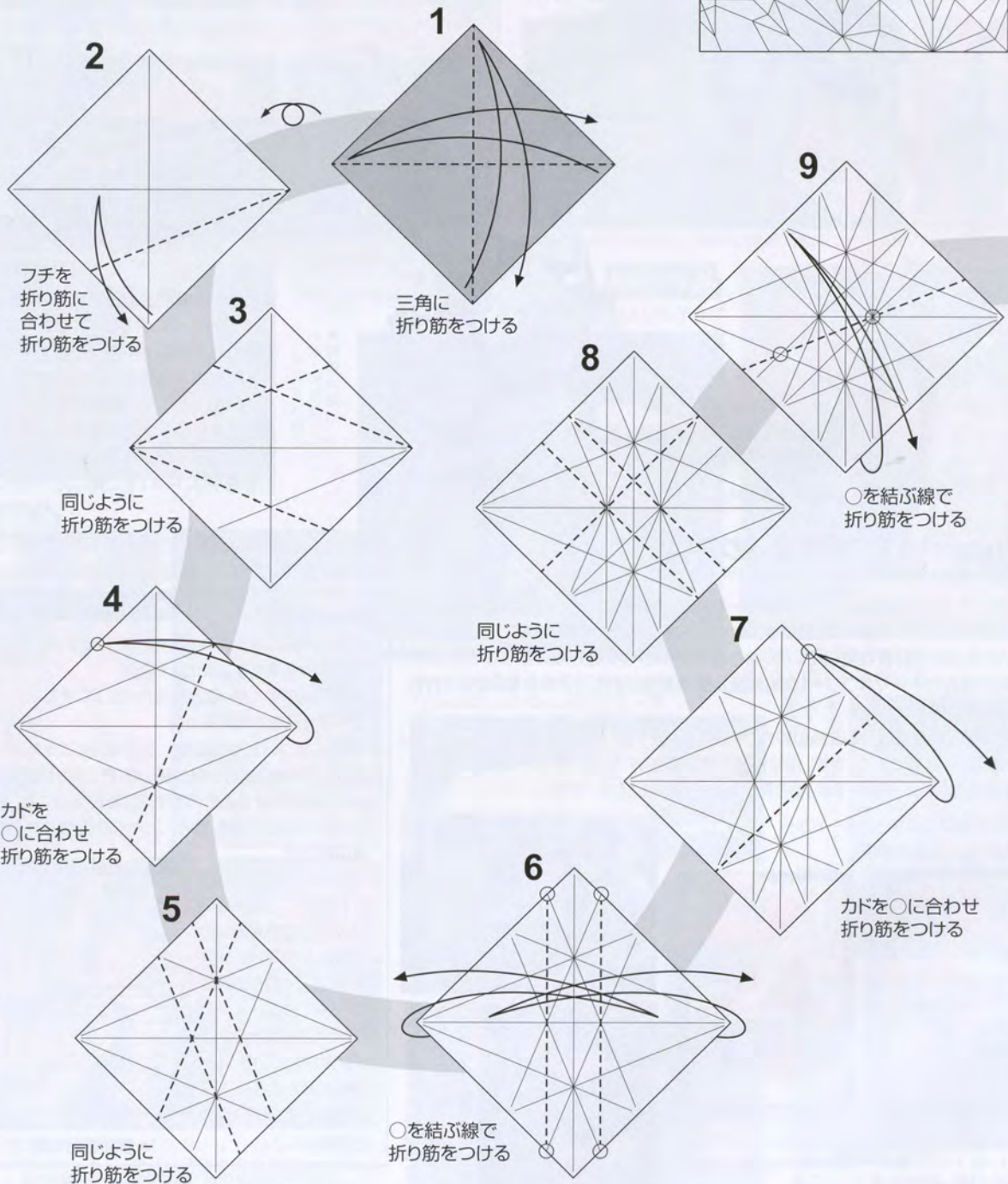
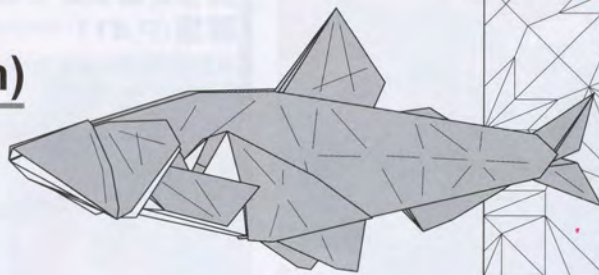
鮎

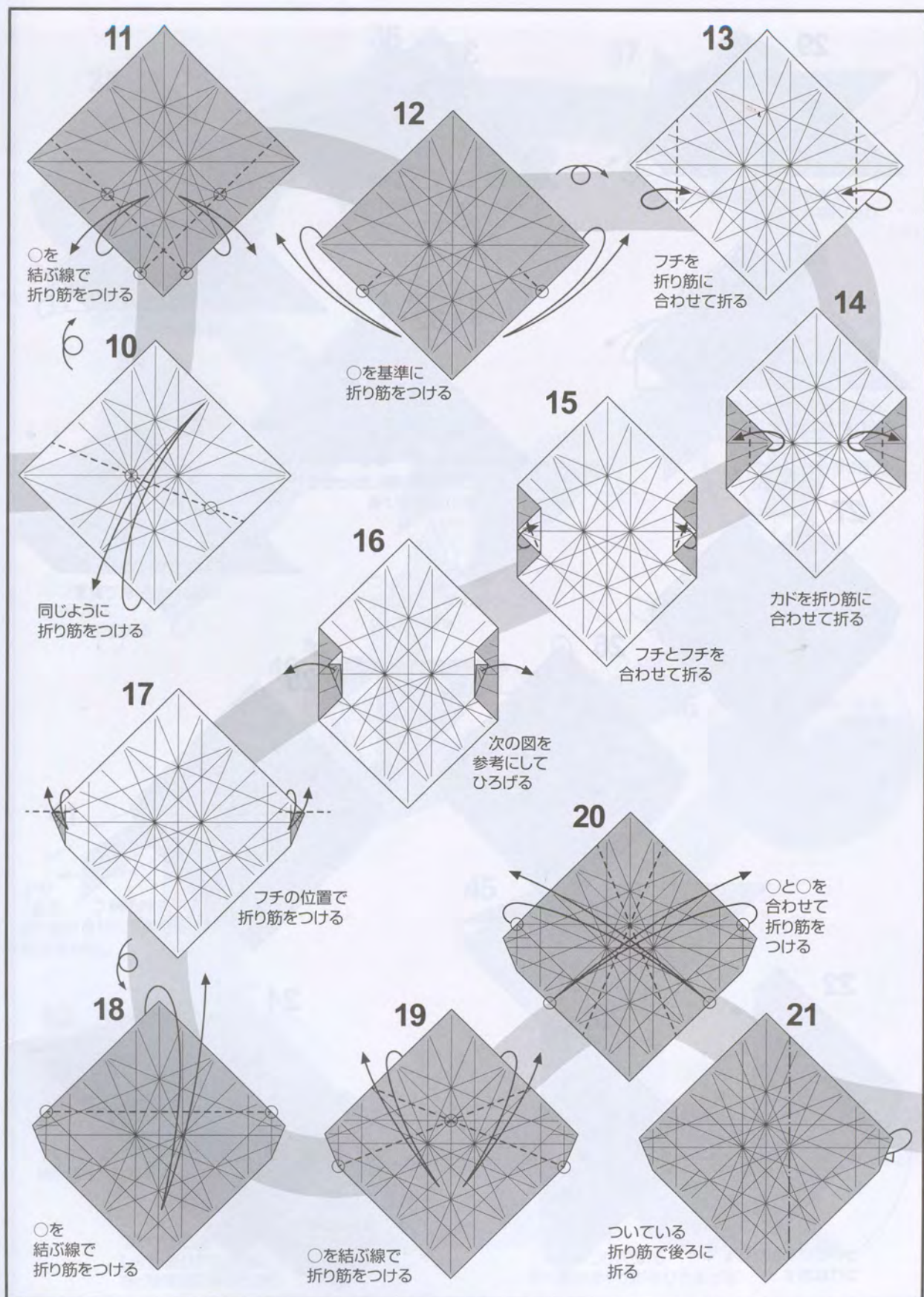
Ayu (Sweetfish)

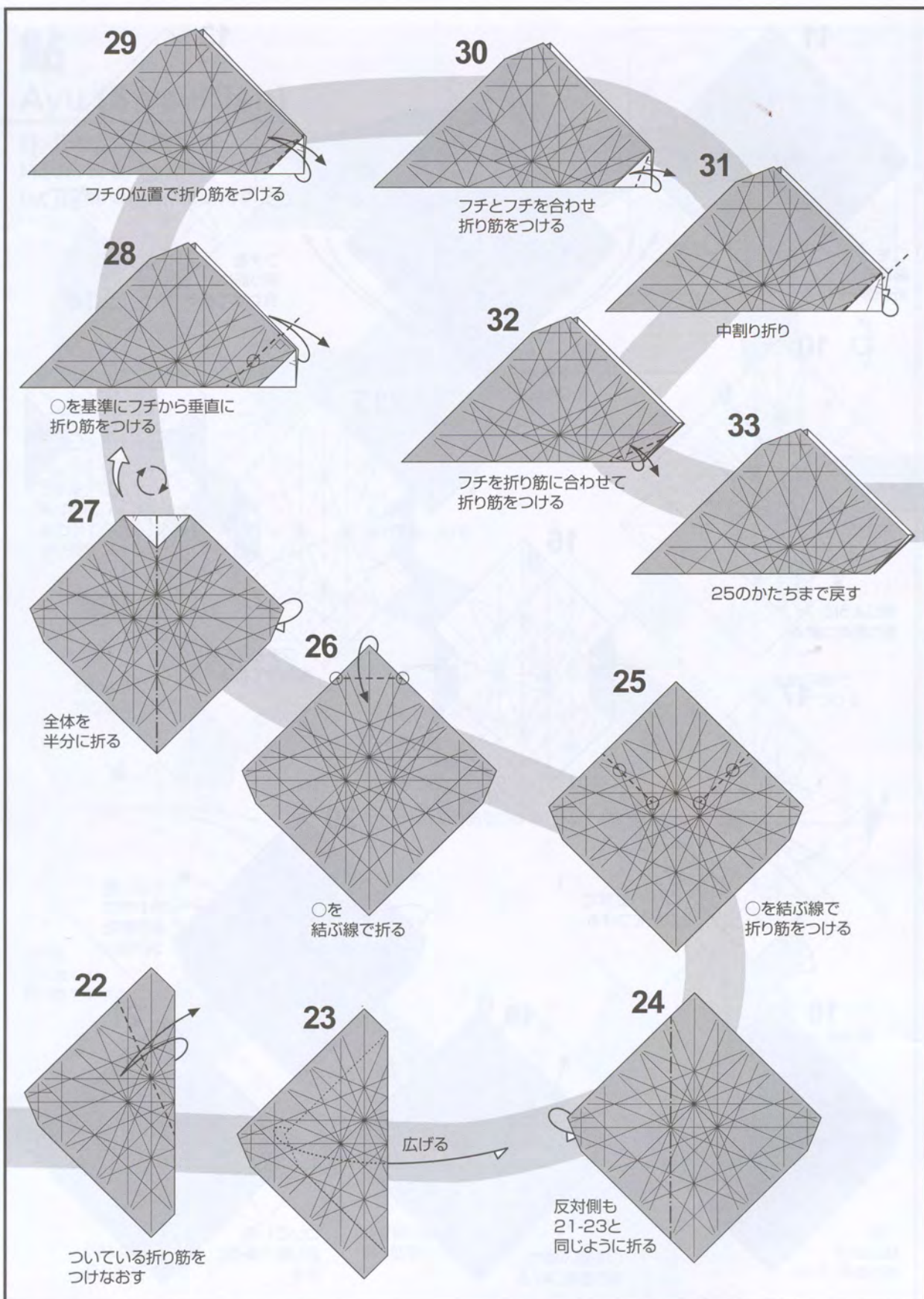
作・折り図: 富永和裕

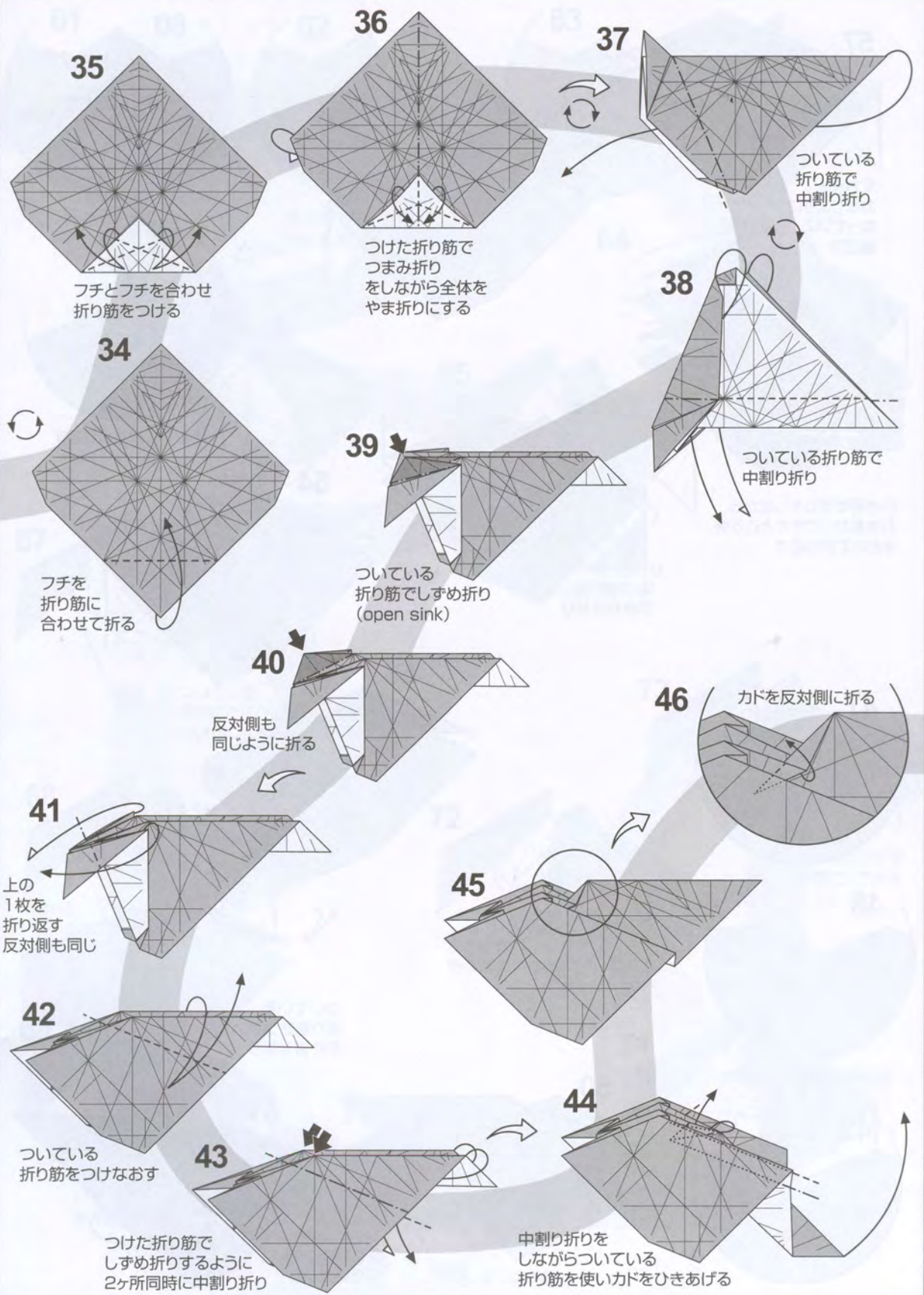
Model & Diagrams

by Tominaga Kazuhiro









57

反対側と
おなじように
なっていることを確認し
裏返す

58

60

しずめ折り

59

手前の1枚を折り返す

56

引き寄せ折りをしながら
おきあがってきたところを
まとめて折り返す

55

51を参考に
引き寄せ折り

54

53

まとめて
折り返す

47

しずめ折り

48

反対側も同じように折る

49

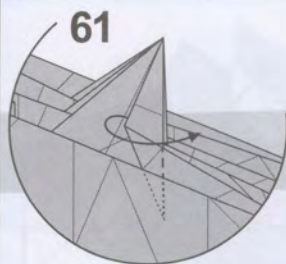
50

かるく広げる

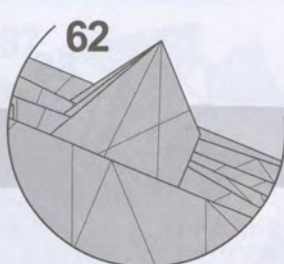
51

ついている
折り筋をつかい
引き寄せ折り

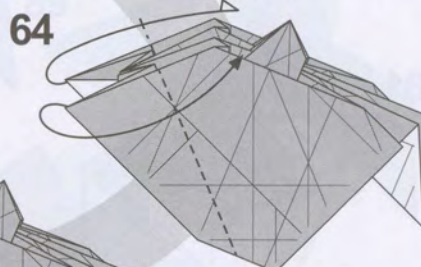
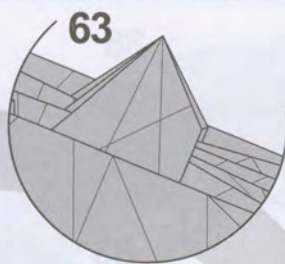
ついている
折り筋をつかい
引き寄せ折り



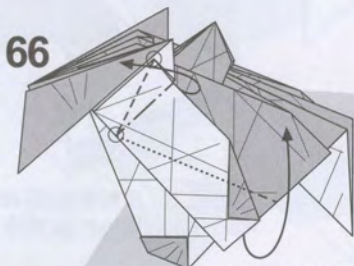
折り返す



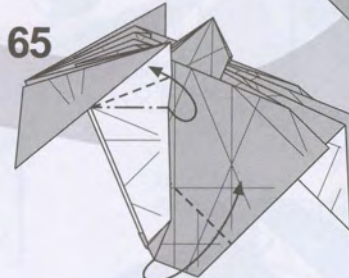
反対側も59-61と
同じように折る



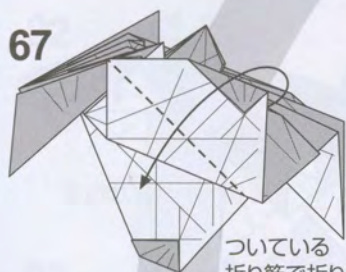
カドを折り返す
反対側も同じ



○を結ぶ線
たに折りし
引き寄せ折り



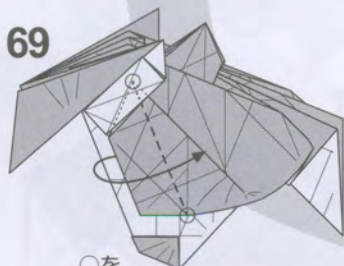
折り筋をフチにあわせ
引き寄せ折りをする



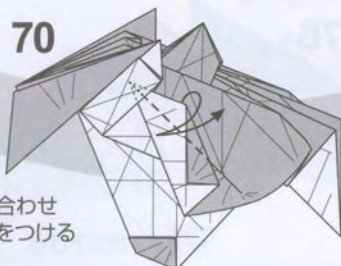
ついている
折り筋で折り返す
たいらにはならない



カドを
折り返す



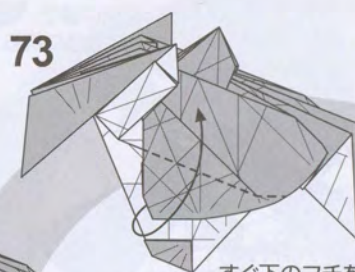
○を
結ぶ線で折る



フチと
フチを合わせ
折り筋をつける



まとめて
折り返す



すぐ下のフチを
参考にして折る



つけた折り筋で
中割り折り

82

ついている
折り筋を参考に
中割り折り

85

かぶせ折り

81

重なりの
前後を入れ替える

83

手前の
ひと束をひっくり返す
ように内側に折る

84

反対側も65-83と
同じように折る

80

○を結ぶ線で
つぶすように折る

79

花弁折り
のように
しながら
折り筋を横に伸ばしていく
たいらにはならない

74

手前のひと束をまとめて
○を結ぶ線で折り筋をつける

78

折り筋と
折り筋を
あわせて
引き寄せ折り

75

○を
結ぶ線で広げて
つぶすように折る

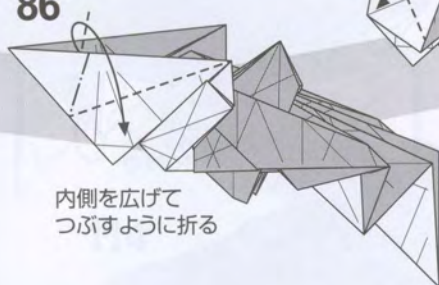
76

折り下げる

77

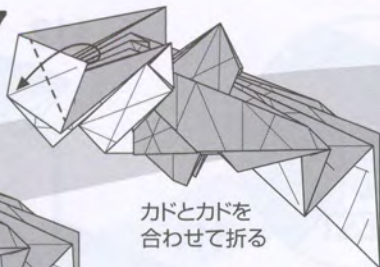
つけた
折り筋で2ヶ所同時に
中割り折りするように折る

86



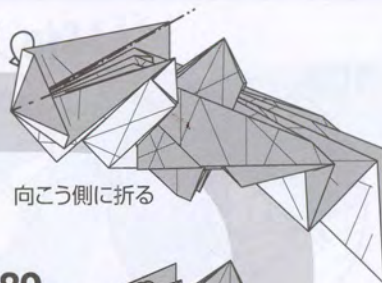
内側を広げて
つぶすように折る

87



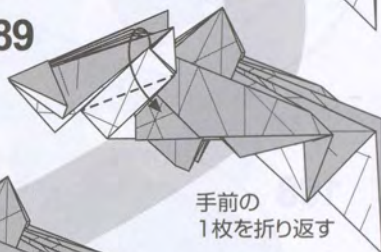
カドとカドを
合わせて折る

88



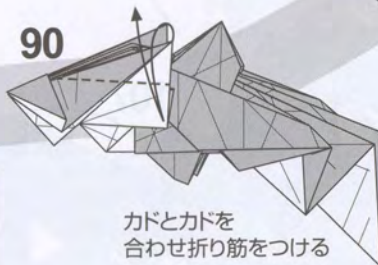
向こう側に折る

89



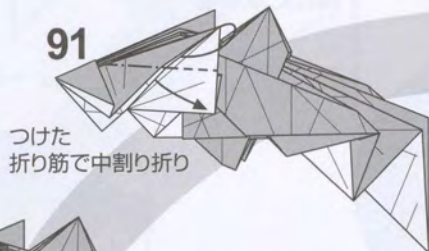
手前の
1枚を折り返す

90



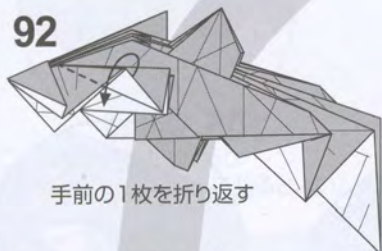
カドとカドを
合わせ折り筋をつける

91



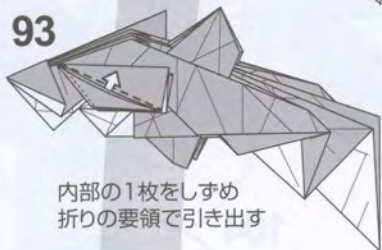
つけた
折り筋で中割り折り

92



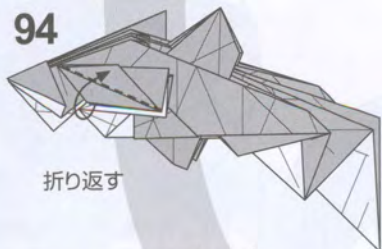
手前の1枚を折り返す

93



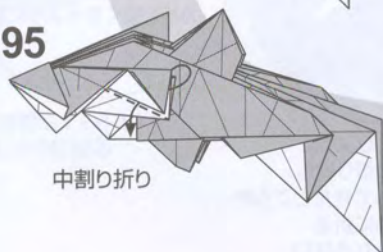
内部の1枚をしずめ
折りの要領で引き出す

94



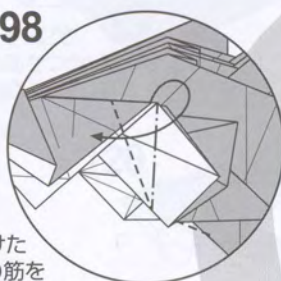
折り返す

95



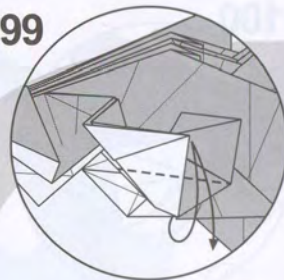
中割り折り

98



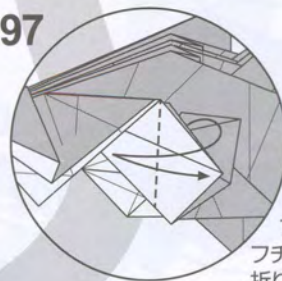
つけた
折り筋を
やま折りにかえ
引き寄せ折り

99



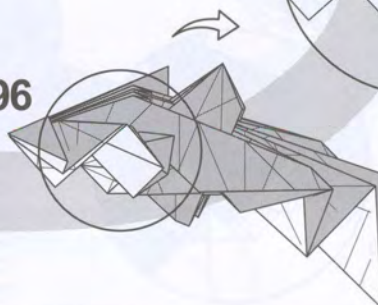
カドとカドを合わせ
折り筋をつける

97

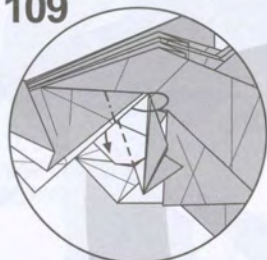


フチと
フチを合わせ
折り筋をつける

96

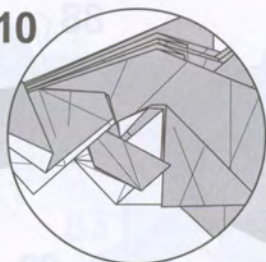


109

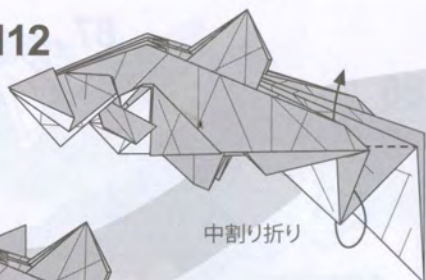


折り返した部分を
中割り折り

110

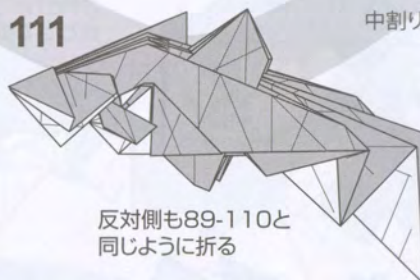


112



中割り折り

111



反対側も89-110と
同じように折る

108



手前のひと束を折り返す

107



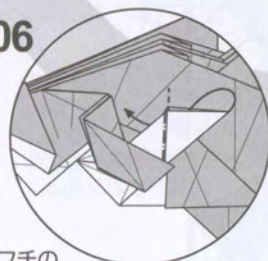
かぶせ折り

100



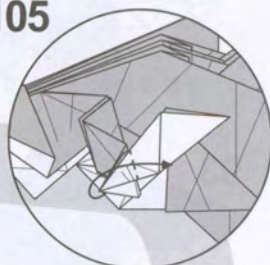
つけた折り筋で2ヶ所同時に
中割り折りするように折る

106



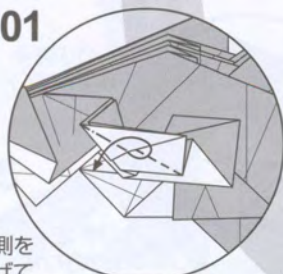
フチの
ところで中割り折り

105



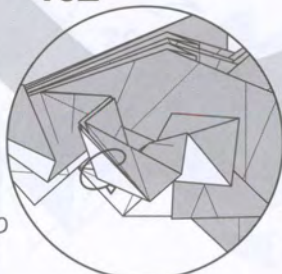
折り返す

101



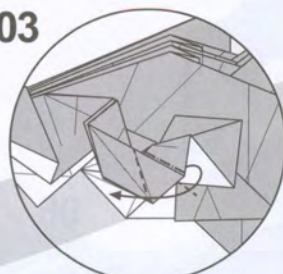
内側を
広げて
つぶすように折る

102



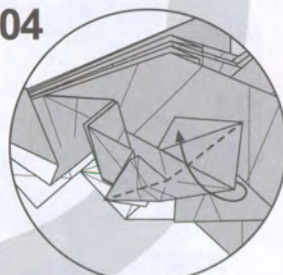
かぶせ折り

103



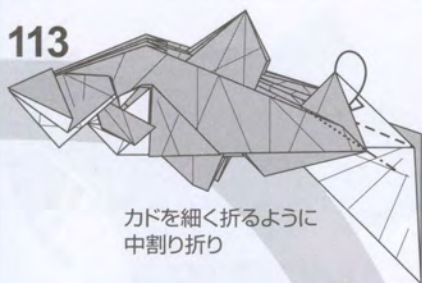
カドをつまむように
折りながら折り返し
起き上がってきたところを
つぶすように折る
たいらにはならない

104



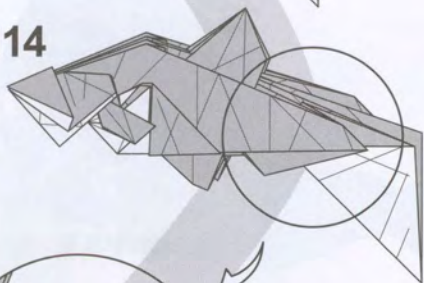
カドとカドを合わせて折り
カドを細くするように折る

113

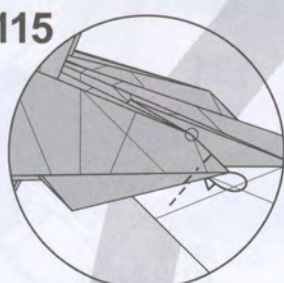


カドを細く折るように
中割り折り

114

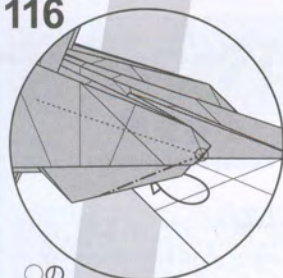


115



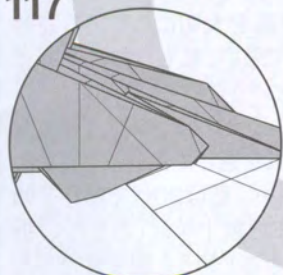
○のところまで中割り折り
(内側の紙を少しずらして折るとよい)

116



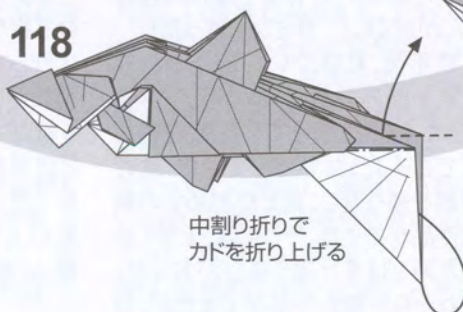
○の
ところであしへ折る

117



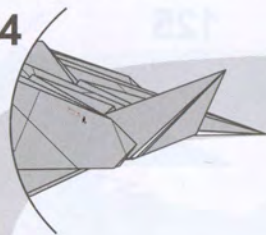
反対側も112-116と
同じように折る

118



中割り折りで
カドを折り上げる

124

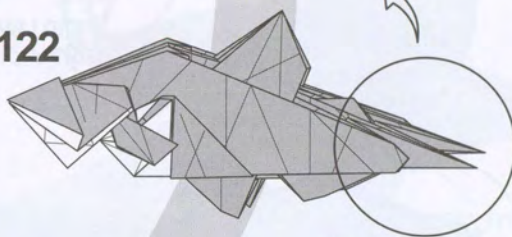


123

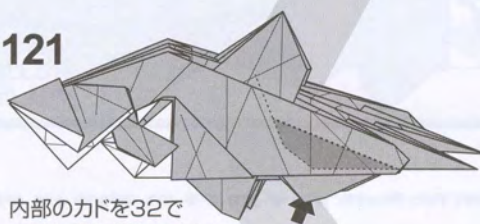


手前の1枚を段折りし
つぶすように折る

122

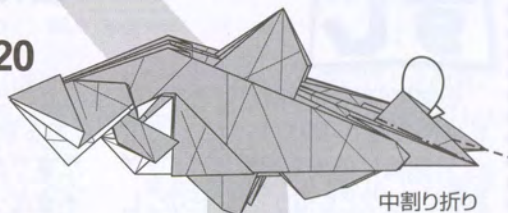


121



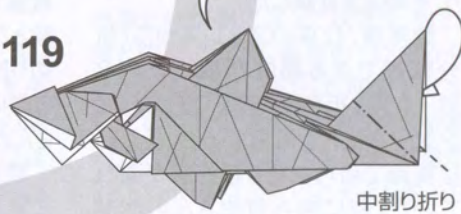
内部のカドを32で
つけた折り筋をつかい
しずめ折りのようにして
折り出す

120

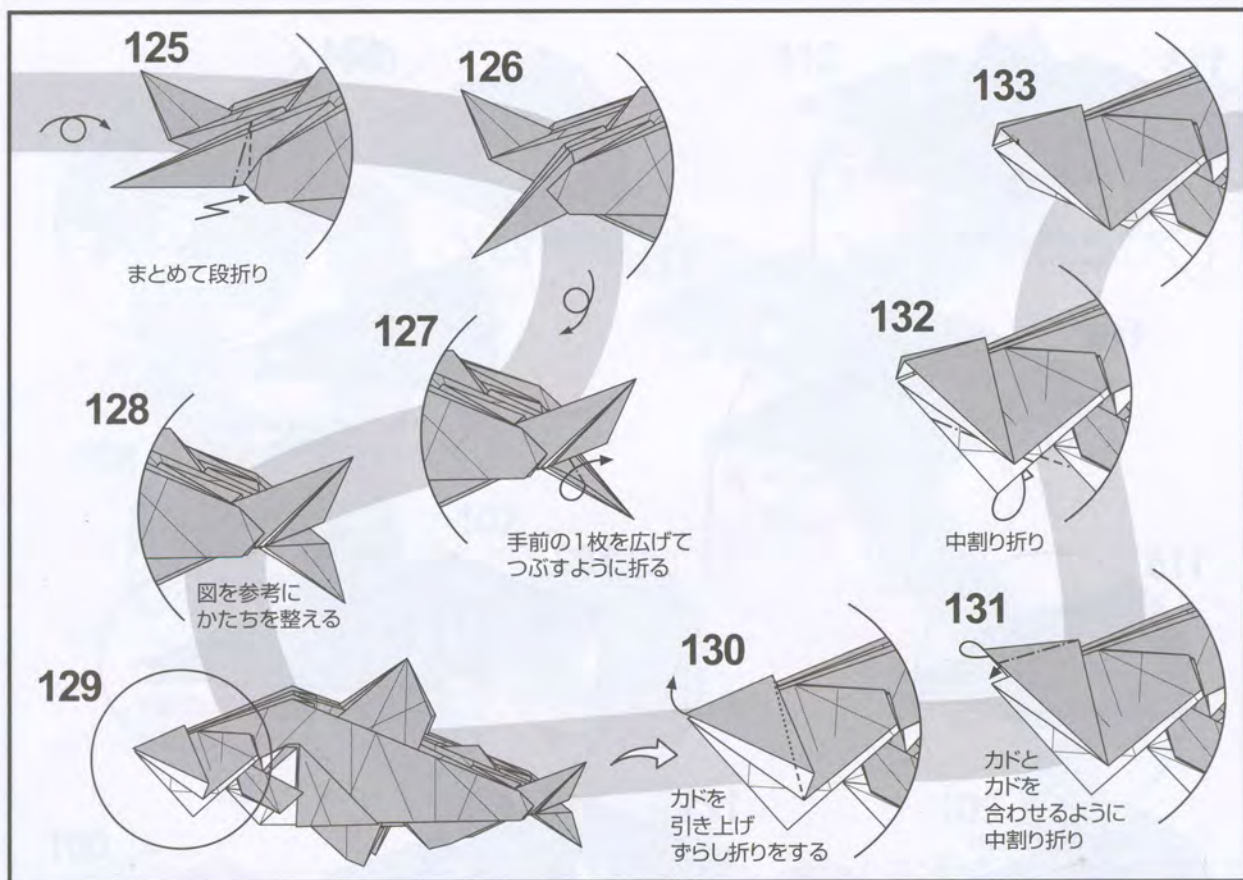


中割り折り

119



中割り折り



Orisuzi ("Fold-Creases")

私の人生と折り紙

Origami and My Life

小林弘明

Kobayashi Hiroaki

小学生の頃、折り紙が好きだった私は図書館で『ビバ! おりがみ』と出会う。悪魔に何度も挑戦し、『トップおりがみ』なども借りては折った。しかし、中学以降折り紙をやらなくなり、そのまま就職した。

数年後、仕事のストレスから「気分転換できる趣味が欲しい!」と思った時、折り紙を思い出した。インターネットで検索すると、そこには複雑で精巧な折り紙作品が溢れていた。特に神谷哲史さんの作品に心を奪われた私は、折り紙の世界にのめり込む。折紙探偵団バックナンバーを買い、折れる作品を折りまくった。神谷作品は難しく、エンシェントドラゴンを折れるまでに1年かかった。

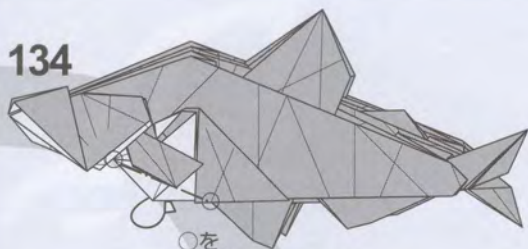
私にとって転機となった出来事は、「ある折り紙作家の教室」に参加した事である。当時、教室への参加は不安だったが、好奇心が勝り参加を決意。そしてその判断は正しかった。教室では多くを学べて素晴らしい経験となった。和紙を使う、大きな紙を切り出す、CMCで下処理するなど知らない事ばかり。何より憧れの神谷さんが近くに! サインも貰った!

数年後、私はついに創作の世界に足を踏み入れた。ある時、ブタを作りたくて紙を折っていたら、頑張ればできるような気がしてきた。試行錯誤を繰り返し、何とか初めての創作作品ができた。そこには、上手く折れた時とはまた違う喜びがあった。それから何個か作品ができたが、作

品に自信が無かった。ある時、西田シャトナーさんの折り紙教室で思い切って自作品を見てもらったら、「カメレオンの顔良いですね」と褒めていただいた。それも嬉しかったが、氏が自作品を大切にしている姿勢を好ましく思い、私も自作品を好きでいようという気持ちになった。

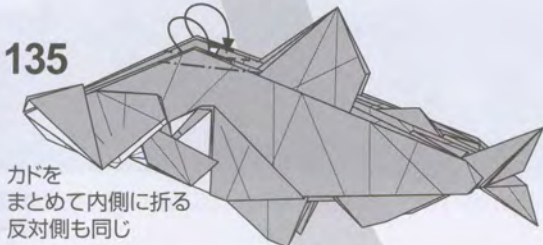
コンベンションへの参加、Twitterなど折り紙を通じて世界はどんどん広がっていく。私は30代で創作を始めたが、まだ数十年は(おそらく)折り紙ができると思うと遅すぎだったとは思わない。折り紙と出会って良かった。創作に挑戦して良かった。私の人生を豊かにしてくれる「折り紙」は素晴らしい!

134



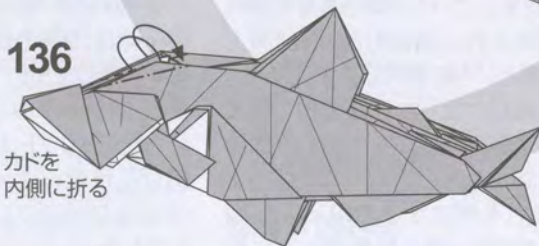
○を
結ぶ線で内側に折る
反対側も同じ

135



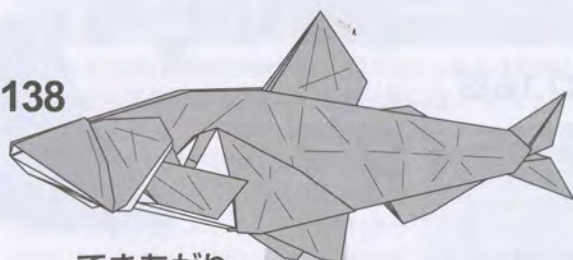
カドを
まとめて内側に折る
反対側も同じ

136



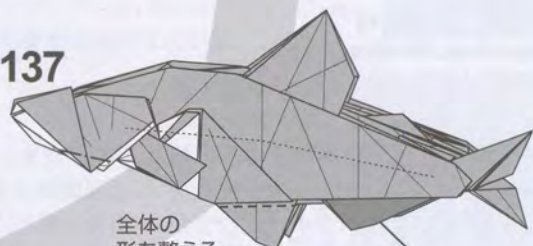
カドを
内側に折る

138



できあがり

137



全体の
形を整える

この「尻びれ」は
本来1枚のため
糊付けをするか
片方を内側に折る
ようにする

折紙六時中

おりがみしろくちゅう

Every Minute Origami

22.5度

22.5 Degrees

折り紙でおなじみの角度に22.5度があります。直角の4分の1です。折り紙作品の基本構造にこの角度が使われていると、「22.5度系の作品だね」などと呼ばれます。わたしはこの角度が大好きなので、22.5という表示を見るとどきりとしします。先日、車のトータル燃費表示が22.5km/lになったので、パーキングエリアに停めて記念写真を撮り、同乗者に呆られました。

地球の地軸の公転面に対する傾きは約23.4度ですが、これが22.5度だったらよかったのになとも思います。熱帯と温帯をわける回帰線も緯度22.5度になってぴったりです。ちなみに、地軸の傾きは変動しているので、数万年という長さで見れば、こ

れが22.5度だった時代もあります。緯度の話では、台湾の高雄市南部、北緯22.5度に、幸福公園という公園があるのも見つけたので、いつか行ってみたいとも思っています。チリにある電波望遠鏡ALMAも、すこし惜しくて、南緯約23.0度です。

夏から秋の夜空の「夏の大三角」（デネブ、ベガ、アルタイル）にもそれらしい角度があります。3つの明るい星からなるその三角形は、ほぼ二等辺三角形で、その頂角は約45度（22.5度の倍）で、底辺の距離（角距離）が約23.8度です。これは、手をまっすぐに伸ばし、親指と小指をいっぱいを開いたときの角度にほぼ合っています。身体を用いたこの計測は、直感的にはもっと狭い角度に

も思えますが、上を向いたときの目と指先の距離では、だいたい直角の1/4となるのです。

また、太陽や月の周りに光の輪が見える、ハロ（日暈、月暈）と呼ばれる現象があります。その角度は、氷晶の形状と屈折率によって決まり、約22度と約46度です。直角の1/2だからとか1/4だからといった理由ではなく、この値なのです。地軸の傾きや夏の「大三角」も同様で、つまりは、燃費が22.5km/lになったのとあまり変わらないただの偶然なのですが、22.5度好きにはうれしい現象で、見たときは瑞兆のように感じます。出現したときは、腕を伸ばして計測してみてください。

前川 淳 Maekawa Jun
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに 挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第116回

アライグマ

Raccoon

森澤碧人

Morisawa Aoto

Created: 2018/02/16

Paper Size: 40×40cm

Length: 16cm



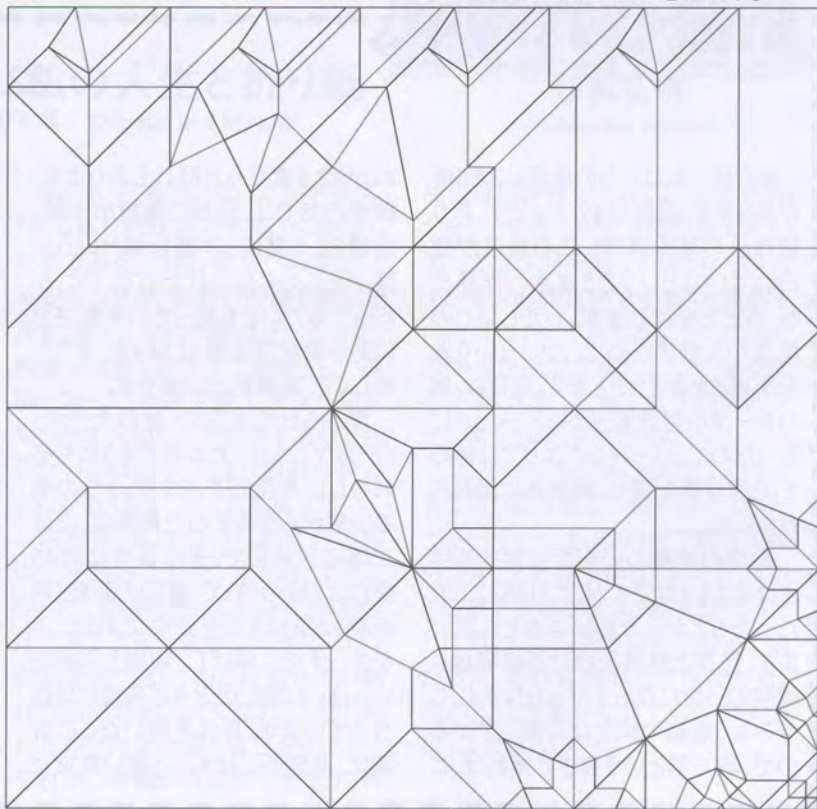
このアライグマを創作する際に目標にしていたのが、シマシマな尻尾とツルツルな背中です。この2つが作品の特徴となり、特異な構造になった所以でもあります。この構造が契機となり第4回ICOA展では川畑文昭賞をいただくことができました。

まずはシマシマな尻尾についてです。シマシマの表現は多くの作品で使われています。しかし線が平行に走るシマシマが表現できている作品はほとんど見られず、これを表現するのが大きな挑戦でした。ここで語るには余白が狭いので割愛しますが、結果的にシマシマを無理なく無駄なく出す術を見つけ、作品に取り込むことができました。この作品では、紙の上辺全てを使いシマシマを出しています。展開図上辺に現れる細い幅は6分の1の幅です。

次にツルツルの背中についてです。アライグマを折りたいと思ったきっかけが背中から見た姿でしたので、折り紙にした時に背中に折りフチなどの線が入るのは好ましくありません。背中に線を出さない表現はクエンティン・トロリップ氏など好む人も多く、私も魅力的な表現だと思います。しかし実際にやってみると意外に難しく、工夫が必要でした。制約として厳しかったのが、展開図上で胴体の面を分割して配置することができないという点です。シマシマの時点でブック型とい

うのが決まっていたため、通常であれば展開図左右に胴体の面、展開図下中央に頭という配置にします。しかし、先述の制約によりこれは実現できません。また胴体と頭をどちらも対称軸上に配置すると正方形では収まりません。これを解決する手段として、胴体を展開図左、頭を展開図右下に配置するという非対称構造を採用しました。

見慣れない線が多いですが、展開図全体は10等分蛇腹で構成されています。頭は22.5度の線で構成されています。四肢の厚みにバラつきが出るといったデメリットはありますが、最初に掲げた目標を達成することに比べれば瑣末な問題でしたので気にしませんでした。このような展開図はあまり例がないので、新鮮な折り味があり楽しめるのではないかと思います。



Rabbit Ear つまみおり

Information

第10回折紙探偵団 静岡コンベンション 参加者募集

2年ぶりの折紙探偵団静岡コンベンション。場所は前回と同じ世界文化遺産に登録された三保の松原に近い、東海大学社会教育センター三保研修館。宿泊施設とコンベンション会場が同じで参加者には好評だ。宿泊は相部屋となるが、料金はリーズナブル。また水族館での懇親会も楽しみの1つだろう。今回のスペシャルゲストは、フランスの折り紙作家でMFPPの前会長である、ヴィヴィアン・ベルティ(Viviane Berty)さんだ。またOATC(オリガミ・アーティスト・トレーディング・カード)の交換会も予定している。



▲Viviane Bertyさん

【日時】2018年11月23日(金)～24日(土)

【会場】東海大学社会教育センター三保研修館(静岡県静岡市清水区三保2438)/アクセス:JR東海道線清水駅下車、江尻口からバス「三保水族館行」約30分

【参加費】大人:4,500円/学生:3,000円/親子割引利用の小学生:2,000円

【懇親会】23日(金)(希望者のみ)

参加費(水族館入館料を含む)

大人:4,500円/中学生以下:4,000円
※1日目の夕食を兼ねた懇親会。東海大学社会教育センター三保水族館内の大水槽前で開催。閉館後の開催で、1階水族館の見学も可能。

【参加申し込み】同封の申し込み用紙をご利用下さい。/定員:150名/締め切

り: 11月10日(土)必着

1日目(11月23日)

参加受付 10:00～
教室受付 10:40～11:00
全体会 11:00～12:00
昼食 12:00～13:00
折り紙教室 13:00～
懇親会 18:00～(希望者のみ)

2日目(11月24日)

参加・教室受付 9:00～
折り紙教室 10:10～15:00
閉会式 15:10～15:40

【昼食】各自で持参、もしくは弁当の予約可能(お茶付き1,000円)。周辺飲食施設は少なく、コンビニエンスストアまで1kmほどある。

【宿泊について】三保研修館宿泊室を利

用。1部屋6人から8人の大部屋。女性2階、男性3階の予定。

一泊朝食付き4,100円(朝食不要の方は応相談)夕食は懇親会のみ。22日(木)の前泊も受付可能。

【申し込み用紙送付先】日本折紙学会事務局(郵送又はFAX) TEL&FAX:03-5684-6080/〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

【問い合わせ先】日本折紙学会事務局: TEL&FAX:03-5684-6080/http://origami.eshizuoka.jp/(静岡友の会公式ページ)



▲Bertyさんの作品

◆WOD 2018 10/24～11/11

今年もWOD(World Origami Days/ワールド・オリガミ・デイズ)イベントを開催します。WODとは、10月24日～11月11日までの期間に、「世界中の多くの人々にもっと折り紙を知ってもらおう」という目的でその期間中の折り紙活動情報を募集し共有する活動です。OrigamiUSAとJOASでは、このWOD活動をより大きく広げるため2011年から連携して進めています。

【私のWOD報告】

WOD期間中に、「WODエントリーシート」をおりがみはうす公式サイト(http://www.origamihouse.jp/wod2018/Application.html)からダウンロードし、プリントして、その上に皆さんが折った作品を置いて写真に撮ってください。そ

してFacebookやTwitter、ブログにアップしてください。折る作品は自由、参加も個人、小さなサークル、どんな単位でも、また何度でも結構です。折り紙の輪を広げるためにご参加ください。

【折り紙テーマ展】

今年のテーマは2019年の干支「亥(いのしし)」です。投稿者本人の創作のみですが、新作・旧作問いません。「私のWOD報告」と同様に投稿してください。リアル展示:おりがみはうすにて作品展示を行います。「亥」の創作作品を、おりがみはうすまでお送りください。

【アートミュージアム展示】「WODエントリーシート」を使って、SNSなどやWOD投稿用メールアドレスで日本折紙学会へ直接投稿された写真は、折紙アート

ミュージアム(<https://www.origami-art-museum.com>)内特設ページにて公開されます。予めご了承ください。

WOD投稿用メールアドレス:

wod2018@origami.gr.jp

作品公開:2018年10月24日から

OrigamiUSAのWOD活動は下記の特設Webページをご覧ください。<http://origamiusa.org/wod>



◀ 昨年の投稿参考例

◆第24回折紙探偵団コンベンションレポート

パオロ・バセッタ
メン・ヒョンギュ、イ・インソプ

忘れられない経験

3月のこと、JOAS主催の探偵団コンベンションのゲストとして招待され、翌週の韓国コンベンションに参加することになりました！ 信じられなかった。

東京では、私のガイドである野口マルシオと出会いました。Paul Jacksonが参加し、韓国でゲストとなることも知っていました。

コンベンションは東洋大学で行われました。作品展示ホールがあり、コンテスト作品展示室、そして300席と2つの大画面を備えたメインの会場がありました！ 作品を展示し、13時30分びつりに「特別講演会」が始まりました。私は約400人の前で勇敢にプレゼンテーションをしました。イタリアの折り紙の過去、現在そして未来について発表しました。

コンベンション中に「ボタンホールパズル」の「犠牲者」を見つけて楽しみました。神谷哲史、Jason Ku、Maeng Heung Gue、Lee In Seopなど。

翌日、土曜日に、2人の韓国人ゲスト、Maeng Heung GueとLee In Seopの講演がありました。私はマルシオの助けを借りて「Runners」と「Truncated Octahedra」の講習を行いました。

土曜日の夜、大学の建物の16階に移動し懇親会を行いました。東京の眺めは本当に素晴らしかった。山口真氏は偉大な司会者でした。私は寿司、麺、エビなど

すべての食べ物を味わいました。非常に興奮しました。まずはビンゴゲームでリラックス。そして、私は吉野一生基金を本物のし袋で頂きました。イタリア人でのし袋を受け取った人はあまりいないと思います！

日曜日に「Inside1」と「Arrows」の講習を行いました。そして、三谷氏の曲線折り紙の講習に参加しました。

コンベンション終了後、日本の驚異の中で私は紙屋を探しました。

忍耐、おもてなし、礼儀、熱意の日本のすべての友達に感謝します。またお会いしたいと思います。イタリアコンベンションでも！ 確かに時間はルーズでありエレガントではないかもしれないけれど、親切でフレンドリーで楽しいやり方は知っています。しかし常に敬意を払っています。

(パオロ・バセッタ／翻訳：マルシオ・ノグチ)

2018年、折紙探偵団コンベンション招待作家という意味深く、良い機会が私に訪れて幸運でした。

折り紙という共通のテーマで集まった人々と、彼らの創作作品、好きな作家の作品を折って持ってきた人たちなど、様々な驚くべき作品を見ることができてよかった。

400人以上の多くの人々が参加しまし

たが、システムの無理なく進められすぎと思いました。

残念ながら短い期間でしたが、大きな経験になりました。改めて、コンベンションスタッフの方々と、招待して下さった日本折紙学会に感謝申し上げます。

(メン・ヒョンギュ／翻訳：オ・ギョンヘ)

メン・ヒョンギュ氏と一緒に東京コンベンションのスペシャルゲストとして選ばれ、私のような独特の作品世界を持っている者が理解され認められたようで嬉しかった。

講演では、私の作品の中でも最もユニークなテーマを選んで重点的に発表しました。人々が新しい創作の方向に接して興味を感じてもらいたかったからで、実際は私の作品すべてが理解しにくいものではありません。

しかし、発表テーマに合わせた発想による作品を見せ、発表を終えた後、思ったより多くの人が「良い講演だった」と話してくれて、予想よりも多くの賞賛と激励を受けました。韓国にこのような作家もいると、誰かに覚えてもらえれば満足です。

招待して下さった日本折紙学会と親切にして下さった全ての参加者に感謝します。

(イ・インソプ／翻訳：オ・ギョンヘ)

P.22に関連写真掲載

◆折紙探偵団 東北友の会 懇親会in山形

芦村俊一

こんにちは、芦村です。東北友の会では、初の試みとして8月25日・26日に温泉宿泊での懇親会を開催しました。

【開催場所】

山形県上山市の かみのやま温泉の宿で行いました。

東北の活動は仙台市で行う事が多く、そこに山形県の学生メンバーが数名参加してくれているのですが、いつも移動が大変だろうと心苦しく思っていたので、今回の懇親会は山形県にしてみました。

【参加者】

東北友の会から福島さん・浅野くん(山形大学)・秋葉くん(東北大学)・芦村、東京関東から山口さん・竹村さん・松浦さん・隅谷さん、そして関西から(!)西村さんが参加してくださいました。

【内容】

今回はこじんまりとした人数規模でも

ありましたので、特にイベント的な事は盛り込まず、温泉に入っのんびり食事とお酒を楽しむ事に。ただ、二次会用に用意したお酒を部屋で夕食前に「ちょっと味見しようか」と飲み始めたものの、どんどん話と酒が進んでしまい、なんかもう夕方早い時間からずーっと飲み続けになってしまったのは予定外でした。(始めてしまったのはもちろん私ですが、)

東北勢としては、学生は山口さんの色々な話を聞けて嬉しそうだったし、今後の活動についてのちょっと大きな話題も出て意義深かったと思います。

2日目は天童市の道の駅でお土産購入と県産品入りのジェラートを食べたりして、流れ解散となりました。

【参加された皆さんへ】

今回、車や列車で遠方から来て頂いた方々、本当にありがとうございます。特に西村さん、わざわざ前乗りまでしてくださ

り、なんという情熱でしょう。(西村さんには特別に皆さんが揃う前にドライブに連れ出しプチ接待しました。滝でライダーポーズ写真も撮りました)

【またいつか】

初めての試みで、幹事の用意不足いろいろグダグダなところがありましたが、今後も何かイベントを考えます。その時は告知しますのでよろしくお願いします！



皆さんお疲れさまでした！

◆韓国折り紙コンベンションレポート

長山海澄・橋本 遼

韓国コンベンションの招待作家として推薦したいとの連絡をはじめにJOASから頂いた時は、正直に言ってかなり驚きました。僕より優れた創作技術を持った同世代の日本人折紙作家が何人も思い浮かぶからです。そこで、僕が招待作家として参加する意義を考えました。思いついたのは、国内の大学折紙界に詳しいことです。そこから今後の発展に活かせる韓国コンベンションにするために意識したことは、「日本の学生作家の折紙環境を紹介する」「韓国の折紙環境について学ぶ」ということです。

招待作家の講演では、僕個人と折り紙サークルネットワークの活動を紹介しました。また、韓国の若手と交流する中で、向こうの大学には折紙のサークルや部活が無く学生折紙界の裾野は狭いと感じました。一方、韓国折紙協会が主催する検定制度が充実しており、折る技術だけでなく折図の読み描きに関する技術も学んでいる方が多いようです。韓国コンベンションに参加されている方々は皆フレンドリーで、日本語の話せる方も多いためコミュニケーションで困ることはほとんどありませんでした。折紙教室は

東京コンベンションと似たような形式でしたが、ほぼ全ての教室にマイクと手元カメラが設置してあったのが印象的でした。教室は基本的に韓国語で進むので説明は理解できませんが、近くにいる方が英語やジェスチャーで教えてくれるのでスムーズに受講できました。

今回招待作家という貴重な経験をさせて頂けたことに感謝するとともに、日韓折紙界の橋架けとなれるよう努めていこうと思います。(長山海澄)

今年の韓国コンベンションの参加者は260名程で年々増加しているようです。会場と宿が同じ建物内にあり、韓国の若手たちの多くは会場の宿に泊まっていた。夜は、私たちも若手たちの大部屋に遊びに行きお題対戦などをして交流を深めました。韓国の人たちは親切でフレンドリーな方が多くすぐに仲良くなりました。

コンベンションの参加者の平均年齢は日本より若かったです。小学生や20代が多かったのもそうですが、ご年配の方が少なかったように思います。若手が中心に老若男女が知らない人とも打ち解

けていてアットホームな雰囲気を感じました。

展示作品は日本と同様に若手の作品が多かったです。展示作品は全体に仕上げるレベルが高く、使っている紙にもこだわりを感じました。作品の平均的なレベルが高く、作風も統一感のようなものが感じられ、韓国内での情報交換・交流が盛んであることがうかがえます。

韓国の若手は、共同制作の折り図集『ORIGAMI PRO』を韓国折紙協会から毎年発行しており、折り紙の発展・発信に尽力しています。日本の若手は山口さんに発破をかけられ折り図を描くことが多く、韓国の若手の自主性とやる気を見習いたいものです。

韓国ではベテラン作家が少なく、今の若手が韓国の創作折り紙を引っ張っているようです。そんな勢いのある彼らと交流を持てたことは本当にありがたいことで、大変貴重な体験ができました。コンベンションに招待して下さった韓国折紙協会と推薦して下さった日本折紙学会に感謝申し上げます。(橋本 遼)

P.24に関連写真掲載

◆折りンピック・PAPER-alympic(仮称)展示作品募集要項

【概要】

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを前に、折り紙の世界でもこの国際的な催しに関連したイベントができないかと考え、2019年8月からの約1年間、ギャラリーおりがみはうすおよびJOASホールにて、オリンピック・パラリンピックの競技をテーマにした折り紙のジオラマ作品展示を行うことになりました。(企画内容は今後変更がある可能性があります)

【展示詳細】

名称:折りンピック・PAPER-alympic展示会(仮称)

場所:ギャラリーおりがみはうす・JOASホール(おりがみはうす隣)特設会場

期間:2019年8月～2020年8月(予定)
※早期応募作品によるプレ展示を2018年9月～2019年7月にJOASホールにて開催予定

【作品条件】

テーマ「2020年東京オリンピック・パラリンピックに採用されている競技」を折り紙で作ったジオラマ作品。冬季競技や過去に採用された競技は対象外とする。エンブレム・マスコット等も対象外。
・1作品1競技を原則とする。1作品内の

人数や小物の数等の制限はなし。

・ジオラマ作品は、縦28×横37×高さ37cmのガラスケース内に展示できるように制作すること。

・ジオラマ内の作品は必ずすべて自立・固定できるようにすること。長期間の展示となるので、作品が不安定な状態にならないよう、補強には万全を期すこと。展示途中で作品が崩壊した場合、担当側で作品を修正する場合がある。

・主たる表現方法が折り紙であれば、使用枚数・接着・補強等の技術的な制限はなし。ジオラマ作品であるため、折り紙以外の素材を使った土台や背景の作成も許容(展示台に負担をかけない範囲に限る)。技術的な説明が必要な場合は、応募時に詳細を記載のこと。

【応募】

・2018年9月より応募受け付けを開始する。ただし19年8月以降の展示期間中にも引き続き応募を受け付ける。

・2019年8月以前に応募された作品は、「プレ展示」としてJOASホール(おりがみはうす隣)の特設スペースにて2019年7月以前も展示予定。

・経歴・年齢・国籍等は一切不問。展示に

あたっては担当者による事前審査を行う。応募の場合には、以下の応募項目をメールで連絡の上、作品を送付のこと。

1.創作者名(フリガナ含む)

2.住所・郵便番号

3.電話番号

4.ジオラマタイトル

5.競技名(タイトルと同じ場合は不要)

6.様式(使用枚数・切り込みの有無・用紙形状など)

7.解説・コメント(200字以内)

8.完成時の状態を撮影した画像データ

<送付先>メール:info@origamihouse.jp / 〒113-0001東京都文京区白山1-33-8-216 おりがみはうす宛

【作品の利用について】

応募作品の写真を、本誌・日本折紙学会の公式ウェブサイト・折紙アートミュージアムなどに利用することがあります。また、応募作品および作品写真を、取材を受けた場合やそのほか適当と判断した場合、おりがみはうす、日本折紙学会事務局、日本折紙学会評議員会、折紙アートミュージアム運営委員会において利用することがあります。ご了承ください。

P.25に関連写真掲載

◆日本中高生折り紙連盟発足 金子奏太朗

ひと昔前と比べると、中高の折り紙部・同好会は増えてきている印象を受けますが、依然として世間の認知度は低く、創作可能な人数も限られています。また、比較的最近にできた同好会では、所有している折り紙関連書籍が少なく、使用紙についての知識が浅いのも深刻な問題であると捉えていました。そこで、筆者の発想、呼びかけで今年5月に発足したのが日本中高生折り紙連盟です。現在、北関東から関西に至るまで、13の中学・高校の折り紙部や同好会、個人が参加しています。

もともと、かなり前から開成学園折り紙研究部と早稲田中高折紙同好会は定期的に交流を行っていましたが、数年前から渋谷教育学園幕張(渋谷)、昨年からは筑波大附属駒場(筑駒)と合同で文化祭でのジオラマ展示を行い、連盟の礎となっています。

現在、前述のような部・同好会支援のため、書籍の個人間での貸し借り、用紙購入場所の情報の共有などを積極的に行い、折り紙サークルネットワークやICOAへつなげていける団体にしたいと考えています。

また、5月から8月まで既に3回交流会を開催し、意見交換やちょっとした創作

大会なども行っています。

今年の6校合同ジオラマは各校の文化祭で通常展示と共に展示し、9月末に早稲田、11月初めに筑駒でも展示予定です。

最後に、折り紙に興味がある中高生の方は、以下のTwitterアカウントまでお気軽にご連絡ください。個人でのご参加も大歓迎です。みなさんのご参加を心よりお待ちしております。

公式Twitterアカウント: @Under18_Origami

◆読者プレゼント引き続き募集

170号でご案内した『かわいけれど、キレがある! おもしろ動物折り紙』は、応募者が5名に満たなかったため、引き続き募集しております。10月末日までにご応募ください。

◆吉野一生基金への寄付報告

第29期9月10日現在、91名の方からご寄付いただいております。また、第24回折紙探偵団コンベンションのオークションの売り上げ42,570円を合わせて、566,470円となりました。ご協力ありがとうございました。新たにご寄付いただいた方々のお名前を、感謝の気持ちを込めて掲載させていただきます。(50音順、敬称略) 立石浩一、Oriol Esteve

●11月17日(土) / 講師: 未定 / 作品: 未定

東北友の会 ※折り紙は各自持参

基本的に毎月第3日曜日の午後開催しています。参加ご希望の方は、メール hmc635@yahoo.co.jp (芦村俊一)まで問い合わせください。

関西友の会 ※折り紙は各自持参

今回は兵庫県西宮市で開催予定。詳細が決定の際には、下記公式サイト及びメール・ハガキ(案内希望登録いただいている方)にてご案内いたします。
http://tatekoo.net/KT/fold_it_or_go/
メール: tatekoo0417@gmail.com (変更になりました。ご注意ください)

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ4階 / 参加費=500円(中学生以下100円) / 時間=13:00~16:00

●10月28日(日)第5研修室 / 講師: 梅本吉広 / 作品: ガウガウティラノ・おすわり犬

●11月18日(日)第5研修室(予定) / 講師: 堤政雄 / 作品: 対立正方形、十字正方形(予定)

JOASホール今後の予定

◆「OrigamiATC研究会」

少人数でわいわいとお茶を飲みながらの会です。お気軽にご参加ください。

10月14日(日) / 参加費=1,000円 / 11:00~16:00 / 内容=ATC交換会、情報交換等 / 定員=20名 / テーマ=私のお気に入り / 参加申し込み締め切り: 10月11日(木) ATC交換会では、郵送参加も受け付けています。詳しくはおりがみはうす公式サイトをご覧ください。

公式サイト=<http://www.origamihouse.jp/>
お問い合わせ=info@origami-atc.jp

◆「勝田恭平創作折り紙教室」

11月11日(日) / 講師=勝田恭平 / 講習作品=シマフクロウ / 参加費=3,000円(材料費別) / 11:00~16:00 / 定員=28名

※対象は、小学校5年生以上です。

※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。

※「勝田恭平創作折り紙教室」は、2週間前(今回は10月29日以降)からキャンセル料(受講費の半額)が発生しますので、ご注意ください。

※申し込みの受付は10月1日からとなります。ご注意ください。

お申し込みは info@origamihouse.jpへ氏名、住所、Email、電話番号、教室名をお知らせください。

編集後記

■韓国折紙コンベンションが今年で9回目。来年は10回大会となる。■韓国コンは、私が韓国折紙協会(KOA)と付き合うようになったのがきっかけで、折紙探偵団コンベンションの翌週に開催することで始まった。■何故、探偵団コンの翌週なのか。■それは探偵団コンに参加する外国人の方に、2大会、東京・ソウルの行程を続けて楽しんでもらいたかったからだ。■また、交流が目的で始まった韓国コンは、毎年日本の折紙作家を招待している。■今年の探偵団コン・韓国コンは、若手作家2対2の交換スペシャルゲストだった。■若手作家さんはお互いに楽しみながら刺激を受けたことは間違いなくと思う。■そのことで作品にも交流にも幅が出てくることを期待したい。■KOAでは韓国の若手作家に来年の招待者のアンケートをとった結果、こちらが提案した若手作家の今井幸太君に決まった。■あまり喋らない彼だが、どんなスピーチしてくれるか楽しみだ。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団マガジン

2018年9月25日発行 第29巻3号 通巻171号
発行所 / 日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人 / 前川 淳

編集人 / 山口 真

編集スタッフ / 松浦英子・おりがみはうす

デザイン / 松浦英子・おりがみはうす

翻訳 / 立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール / 参加費=大人500円(非購読・非会員700円)、中学生以下300円(非購読・非会員500円) / 時間=14:00~16:00 / 研究会=16:00~(開場は13:45、満員の場合は、先着順とします)

●10月6日(土) / 講師: 今井幸太 / 作品: セーラー服

●11月3日(土) / 講師: 未定 / 作品: 未定

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=静岡の和紙処ますたけ(静岡市呉服町1-3-6 増武ビル3F) / 参加費=500円(中学生以下200円) / 時間=10:30~15:00
※折紙用紙・昼食は各自ご用意ください。スリッパ等上履きをご持参下さい。

●10月7日(日)午前=講師: 鈴木美恵子 / 作品: 天狗(西川誠司・作)、午後=静岡コンベンション打ち合わせ・自由講習・情報交換など

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパス / 参加費=大人500円(中学生以下は200円) / 時間=13:00~15:30

●10月20日(土) / 講師: 未定 / 作品: 未定

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.171 / Published on 25, Sep. 2018 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Raccoon" Produced by Morisawa Aoto: Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Maekawa Jun / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Origami House / Editorial Design: Matsuura Eiko, Origami House / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



第24回折紙探偵団コンベンション

好評発売中!

折り図集vol.24

日本折紙学会 編 / 2,700円(税込) / 送料430円
B5判 / 全304頁 / 63作品収録

収録作品=ハムスター・勝田恭平 / トビ・神谷哲史 / バ
ラ・川村みゆき / いもむし改・小松英夫 / 押し込み立
方八面体・デビッド・プリル / うさぎ・クエンティン・ト
リップ / キンチャクダイ・メン・ヒョンギョホカ

| 書籍名 / 著者・編者 | 価格(税込) | 送料 | 内 容 |
|--|--------|--|---|
| ユ・テヨン折り紙作品集 ユ・テヨン 著 山口 真 編 立石浩一 訳 | 3,130円 | 国内一律 1冊 430円 (梱包込) | B5判 / 全180頁 / カラー口絵4頁 / 20作品収録 新進気鋭の若手作家ユ・テヨン氏の折り紙作品集 |
| クエンティン・トリリップ 折り紙作品集 クエンティン・トリリップ 著 山口 真 編 立石浩一 訳 | 3,130円 | | B5判 / 全180頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 トリリップ氏独特の感性が光る動物折り紙作品集 |
| 神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳 | 4,320円 | | B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成 |
| 神谷哲史作品集2 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳 | 4,320円 | | B5判 / 全232頁 / カラー口絵8頁 / 16作品収録 折り紙界の最先端、神谷氏の約8年ぶりとなる作品集 |
| 小松英夫作品集 小松英夫 著 山口 真 編 立石浩一 訳 | 4,320円 | | B5判 / 全232頁 / カラー口絵8頁 / 20作品収録 折り図も1つ1つの作品として捉える小松氏の初作品集 |
| 西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳 | 3,460円 | | B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本 |
| 折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳 | 3,780円 | | B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、精巧で緻密な昆虫折り紙の本 |
| 面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編 | 3,560円 | | B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集 |
| エリック・ジョワゼル —折り紙のマジシャン— 山口 真 編著 立石浩一 訳 | 5,180円 | | B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集 |
| 第23回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.23 日本折紙学会 編 | 2,700円 | | B5判全304頁 国内・外から集まった秀作64作品を収録 |
| 第22回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.22 日本折紙学会 編 | 2,700円 | 3冊以上の 複数冊は 本により 異なります お問い合わせ ください | B5判全304頁 国内・外から集まった秀作61作品を収録 |
| 第21回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.21 日本折紙学会 編 | 2,480円 | | B5判全288頁 国内・外から集まった秀作57作品を収録 |
| 第20回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.20 日本折紙学会 編 | 2,480円 | | B5判全288頁 国内・外から集まった秀作61作品を収録 |
| 第19回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.19 日本折紙学会 編 | 2,480円 | | B5判全288頁 国内・外から集まった秀作53作品を収録 |
| 第18回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.18 日本折紙学会 編 | 2,380円 | | B5判全272頁 国内・外から集まった秀作48作品を収録 |

書籍2冊の送料は640円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙はそれぞれ別発送となります。

Coming Soon! 10月発売予定・予約受付中!

川畑文昭折り紙作品集 (税込) 3,560円

川畑文昭 著 / 山口 真 編 立石浩一 訳 送料 430円

B5判 / 全180頁 / カラー口絵4頁 / 16作品収録 / 収録作品=ネコ、シマリス、ビーグ
ル犬、ボニー3D、ハシビロコウ、小鳥、亀、T-Rex、ステゴサウルス、ヨーダ、ベガス他
予約申し込み方法: 通常の通信販売方法(右下参照)と同様です。送料と本の代金をお送
りください(送付先住所と商品名を明記のこと)。発売日後に発送します。

| 商品名 | 価格(税込) | 送 料 |
|--------------------|--------|------|
| 恐竜柄おりがみ用紙 | 1,080円 | 550円 |
| 恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット | 1,300円 | |
| 『折紙探偵団マガジン』専用ファイル | 810円 | 370円 |

※2冊、2セット以上の送料はお問い合わせください

折り紙用紙専門のオンラインショップ!

**おりがみはうす
オンラインショップ**

<http://www.olshop.origamihouse.jp/>

おりがみのトーヨーの商品を
25%引きで販売中!

※創作専科・アウトレット商品等を除く / 発送は週1回木曜日

詳しくは
検索サイトで

おりがみはうす

検索

商品のお申し込み方法

先に**郵便振替**か**現金書留**で料金(商品価格+送料)をお
送り下さい。入金を確認後、商品を発送させて頂きます。ご希
望の**商品名と連絡先の記入**(郵便振替の場合は振替用紙の
「通信欄」に記入)をお忘れなくお願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※PayPalによるお支払いも可能です。

詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は下記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。

※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL: (03) 5684-6040 FAX: (03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月~金 12時~15時 土・日・祝 10時~18時

The Origami Tanteidan Digest

The objective of the Origami Tanteidan Digest is to share the articles on Origami Tanteidan magazine and provide an English summary of most (but not all) text. The numbers indicated as "Page xx" refer to the page numbers of the original articles in the magazine. While not all content is translated, it should give you an idea about what the article is about. We hope you will enjoy. Let us know if there is anything we can do to improve or any further comments. Please contact our editorial department at: webman@origami.gr.jp

(Page 7) Origami and Its Neighbors #90 – Diana Treebrown Butterfly By Tomoko Fuse

It was a hot summer in all Japan. Here in the "Shinshu" region, it was also hot, without much rain, and the plants survived the heat by rolling their leaves. Only cicadas cheered up making loud noises. I have not left home to go anywhere during this summer and I worked hard to create some models. Because I kept the window open, various insects would come in. The horseflies and bees are troublesome, but dragonflies and butterflies are welcome. Among them, a butterfly named Kuroga stopped on my arm and licked sweat, even if I tried to shake it off. Even if I moved it would not run away. It was amusing to fold an origami model while feeling a cold proboscis touching my skin. That is the color of life.

I narrowed down the origami models for publication and decided what I wanted to do, that is, the artistic form unique to origami (but I am told that I always do what I want to do anyway), and several years passed by.

Thankfully, I was invited to participate in exhibitions and art festivals, and so I had been receiving orders for tessellations and lamp shade models.

I had never thought about selling origami models thus far. So, I was first bothered by the pricing. And then, because it is paper anyway, there is also aging and deterioration. Lamp shade glows yellow in about 5 years even when using exclusive flame-retardant paper. Shoji washi paper is supposed to be replaced every few years. Such a culture exists in Japan. I understand that the client wants to enjoy the process of making the change, too.

There is a soft and light-colored paper different from iron, glass, wood, stone etc. It breathes. While feeling the humidity and the flow of air, it

Table of contents

(Page 7) Origami and Its Neighbors
 (Page 13) Close-up
 (Page 16) From the Bookshelves of the JOAS Library
 (Page 18) Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN
 (Page 36) Orisuzi ("Fold Creases")
 (Page 37) Shirokujichu ("Origami Around the Clock")
 (Page 39) Rabbit Ear Information

Translated by Marcio Noguchi

gradually ages. Models that remain in future generations are wonderful, but I think it is not bad that some will disappear when it reaches the point of life expectation.

Keizo Watabe, Ajijima Small Birth Paper Studio, who often purchases paper, said, "My paper is about 100 years old, it turns out to be a withered taste every year, I can not stay alive There was "saying". I made plain weave with this paper, but what will happen after a hundred years.

(Page 13) Close-up Origami Utaawase Match: Waka and Haiku with Origami By Jun Maekawa

I never tried to write tanka or haiku by myself. But I've always liked to read tanka and haiku poems. Recently, I have collected some songs and poems in which origami was mentioned, but recently I started to make tanka poetry by myself, and my own sensitivity improved a little as well. This time, I introduce such songs and poems. However, they are not a result of an extensive search. They are the ones I found by chance, so there must be many more songs and poems. Please let me know about poets you find out, or those the people who did find that kind of information.

Let us start with Mariko Hattori.

"Hakuren ni kamihikoki no tamashi ga yukkuri kaette kuru yumagure" - Mariko Hattori
 (Late afternoon, the paper airplane spirit returns slowly to the Kakuren lotus flower)

Certainly the lotus flowers of Haku Mokuren are like paper. Rare are the circumstances when that we stare at blooming flowers for a long time, so we often feel it suddenly. And so, like a visit, it feels like something comes back. Hattori saw the return of the paper airplane that flew somewhere that day.

On the other hand, the fact that the flower looks like paper can lead to a dull emotion. The next poem is not written origami, but there may be days when everything looks like a fake.

"Ume no hana kamikuzu mekite eda ni mi yuware no kokoro no konogoro ni nite" - Bokusui Wakayama

(Plum flowers of paper waste resemble these days in the heart that is seen in branches)

It is paper waste. If you think about it, the paper airplane which flew away also became heavenly, but rather than becoming serene, in fact it was like this poem and became paper waste.

"Kami hikoki ga hinihina kami ni modori yuku kawakeru rakuyo damari no ue ni" - Takako Hanayama

(Paper airplane goes back to paper, day by day pool of dry, fallen leaves)

The decaying paper airplane is lonely. Hanayama cares about that situation and see from the corner of her eyes. Hattori's song is also about a paper plane that wanders around the boundary of semidarkness, so is there a paper airplane flying more lightly? The next song may be such a poem.

"Tozakaruru kami hikoki no koseki o nazorugotoku tobi orita kimi" - Koichi Masuno
(You who jump like tracing the wake of paper airplane away from you)

Jump! I think that is okay, I can see the blue sky in this poem. Koichi Masuno is currently the most active poet. There is an episode when we organized a unit called "Kingami & Gingami" (gold paper and silver paper) together with a manga author Katsuo Kawai (just because both looks alike). And the words gold paper and silver paper seem to touch the choreography of the poets, so there are some poems with those elements.

"Gingami wo te wa tatamitsutsu shimo no yoru o gingami no koe chisaku narinu" - Yukari Kojima
(While collapsing the silver paper, hands collapse the frost nights silver paper voice down)

Making something with a silver paper. A cold night. As you fold in, the sounds that make up the silver paper become smaller and become faint. There is also the resonance of that word in the silver paper, and I also feel a special power somewhere. Go ahead and read the next poem.

"Ototoyo mezamashidokei o gingami de kurume natsuyasumi no hajimarida" - Hiromasa Homura
(My younger brother wraps the alarm clock with a piece of paper, it is the beginning of summer vacation)

The paper will not be able to shield the sound, but the paper is a kind of barrier. Magical paper like a mirror that bounces off all light and gaze. Because it is a magical paper, ripping it also becomes poetry.

"Gingami wo saite agemasu yasashikute

kuruisodesu yaban nandesu" - Kiwami Murakami
(I'll split the silver paper. I'm gentle and crazy. I'm savage)

Yes, tearing the paper is savage. And gold (foil) paper. It may be more special than the silver paper. Many people who might have childhood memories when they had kept the gold (foil) paper, without using it ever, as it was often just a single sheet within the whole origami paper pack. Today, it is possible to buy 100 sheets of "gold (silver) foil" at 500 Yen. Although it is 2-3 times more expensive than regular origami paper, there was an era in the past when the gold (foil) paper was truly precious.

"Hoshi no wa yuki tatoeba kin'iro no origami otte shimaeru yuki" - Kei Amano

(What you want is courage to fold the golden origami paper)

It is tenacious, but it is possible to understand it well. Amano dares to write a poem full of "feminine sensibility" when using such words. But there are other original poets of modern tanka poem who wrote about origami.

"Origami o narabeta yona sudden ni kawa wa surudoki gin no o takebi" - Machi Tawara
(In a paddy field like origami arranged river sharp silver roar)

However, this poem is not a feminine lyric, but a metaphor of origami, and a majestic view of the scenery. Besides, silver is a prominent color. A fresh wind blows through. On the other hand, speaking of the leading figures of contemporary Tanka, which creates a magical atmosphere, here is such a person.

"Shonen no karada wa hasami yukkuri to aoi origami kirisaite yuku" - Amari Hayashi
(The body of the boy scissors slowly slash the blue origami)

For folders, scissors are also an enemy. So, the image of cutting is terrible.

The sense of general origami is quite different from this poem, it is about "nursery". "Nursery" is a word related to babysitting, nursery school, childcare room; however, nursery rhyme is children's song, there is nuance of compassion and care for each other, nurse has meaning of breast-feeding (as in nursing an infant). In other words, it means "milky". I find the word "nursery nurse" a bit weird, but this repetition is also fun, like an infant's slang (like "goo-goo" sounds of a baby which is not yet a language). The next poem also looks a simple one, but as observer Homura Hiroshi pointed out, in reality it is skillful, and the repetition of "kokko" provides an atmosphere of nursing.

"Oikko no chisana yubi ni yakko ori oshiete watashi obasan ni naru" - Ayako Ichikawa
(Teach my nephew little finger some fancy folding and become an aunt)

Ichikawa is the editor of Hiroshi Homura's book "Hajimete no Tanka" (First Tanka). This poem

from the afterword of that title. The point is the ambiguity of "becoming an aunt". Being happy and having aged, the poem pattern ("Utagara") is very "nursing" . It is also the same with next poem.

"Origami de botan o otte miseru ko no nebaru oppana maman wa fuku no" - Izumi Motoshita (The child that folds and shows the peony with origami paper, wipe sticky blue sky "maman") Motoshita is a picture book author. The "peony" depicted here is probably the traditional "paper flower" which is made spreading thin paper bound with a rubber band, and often used as decoration for "Undoukai" school athletic events. It is not exactly an origami model, and it is not difficult to make. If an infant who is wipe blue sky folded a Kawasaki Rose-like model, that would be amazing. A mother who wipes out the nose of a child creates a feeling of a nurse, but by calling her "Maman" it is depicting an educational "mama" pretense. So, I introduced two nurse poems, but the next is a poem far from that.

"Origami wo oru shika nou no nai yatsu ni ashi no saki kara ora re hajimeru" - Taro Yoshioka (Start folding from the tip of the foot for a man who has the only ability to fold origami) As origami enthusiast, this poem is like: "do you wanna fight?" Without thinking too deeply, I thought of a parody "mijika uta yomu shika nou nonai yatsu ni atama no ue kara kotoba no taga shime" (Word to brace oneself from the top of the head for a man who recite short verses) However, it is also a wonderfully attractive poem. In Shigeru Mizuki's "GeGeGe no Kitaro" manga, I remember a scene where Kitaro was rolled like a flat piece of cloth. Also, the British novelist Ian McEwan, wrote a short story named "Three-Dimensional Geometry" about a sheet of paper that would disappear when folding in a specific way. There are other poems that recite the magic of such origami, and the kind of disturbance that arises from it.

"Tsuru wo oru gantan no kojiri gishiki nari ikenie nogotoku ichiba tobezu ni" - Sasara Kura (Fold the crane Personal ceremony of New Year's Day like sacrifice - without flight) If it was just folding origami cranes during the New Year's Day, it feels somewhat charming. But it is not gentle when it is sacrificed. Because it is a sacrifice, it can't fly away and escape. Right from start, origami cranes don't fly and run away. The next haiku that recites an origami crane is scary.

"Kaeri hana tsuru oru uchi ni ori korosu" - Toshi Akao (Returning flower fold a crane home fold and kill) Returning flowers are cherry blossoms and plums that bloom out of the season. In haiku there is something called "cut" . This phrase is cut here. The origami crane is portrayed depicting the image of an off-season bloom. Perhaps forgetting how to fold the crane, it ended up

"folded and killed" . What remained was the debris that might have been a crane. As an origami designer thinking about new models, it may be daily routine to kill paper. But here, the person who have killed the crane is probably stunned. Now, there is a poem that is even scarier.

"Obitadashiki tsuru no shitai wo oru tsuma no shiro ni akanotsuki wa rai riki" - Hikaru Koike (A scarlet moon will come behind the wife who folds the dead body of the large crane) It is a horror movie. The crane was never alive, from the beginning. At any rate, it is too much to call it a dead body, a crane that was perhaps folded as a condolence gift for someone. I also wrote that the mass of crumpled folded paper was "crane." But there is also a question of how much an origami crane is an actual crane, in the first place. Is the protrusion behind it, a stretched leg, a tail, or perhaps just something pointing towards the world?

"Utawagazu Mina Tsuru to miru orizuru wa genjitsu no tsuru ni wa nite inai" - Hide Matsumoto (Undoubtedly all origami cranes seen as cranes do not resemble real cranes) The Orizuru origami crane is not a bird from the Gruiformes order, Gruidae family but an abstract bird, therefore this poem is right on the money. On the other side, there are other things that do resemble Orzuru origami cranes.

"Bebika wa orizuru ni nite ko wo kai hi tobuya mo shirezu kasa agana" - Yuki Mitsumori (The stroller is like an origami crane maybe also kidnap a baby and shop ball and chain) It is hard to imagine that a stroller with wing-like stuff appendix. But it looks like that for Mitsumori it does look like a crane because of the long handle neck, and the swollen hood. "Iron ball with chain and shackle" is a depiction of a large iron ball attached to the prisoners' leg. If a stroller fled, parents will panic, infants may be smiling, and such imagination creates more anxiety. Many poems with Orizuru origami crane invite anxiety for some reason. It may be that such poems are all in my mind.

"Kimoichi waruikara motte kaette kure to chichi irotoridori no orizuru wo mite" - Naoko Higashi (I feel uncomfortable I ask to take it back home as I saw a colorful father origami crane) Terrible, Higashi's father. Because the color is so rich, it is like shifting from realism and feeling uncomfortable? Or maybe the orizuru origami crane itself is eerie. Or like the father of Kusatao Nakamura's Haiku probably wanting the origami crane folded by his daughter.

"Tsuyu no yoru no kin no orizuru chichi ni kure yo" - Kusatao Nakamura (Gold night rainy season, please give me the origami crane) Here also, the gold foil paper is a point to brag.

This phrase is a relaxing. But the next poem upsets the heart, also considering the fact that the author died at a young age of 26 due to a complication with influenza.

"Orizuru no hane wo hasami de kiriotosu watashi ni hisomu ame no ryōiki" - Hiroyuki Sasai
(Cut away with scissors feathers of Orizuru, rain area that hides on me)

Similar to Koike's poem, it seems to be some kind of a ritual of a curse. From the origami enthusiast's point of view, cutting off is also associated with checking the shape of a structure when collapsed flat and all edges align in a single straight line (known as "single-line molecule" in origami design). So, could he be writing about the interpretation of the origami crane geometry? Oh well. But that can't be the case. It is not that there isn't any haiku that recites the geometry of Orizuru origami crane.

"Orizuru no tamen takaku ni natsu no tsuki" - Kiyoko Uda

(Orizuru origami crane's multi-angular multi-faceted summer moon)

I also like poems with such a sense of transparency. But, I am also intrigued about poems like that from Sasai. Sasai has another poem about Orizuru origami crane.

"Orizuru wo aita nochi ni otozureru yasashi ushi no yona yugure" - Hiroyuki Sasai
(Dusk like a gentle cow that visits after unfolding origami cranes)

Perhaps the meaning is to open the wings to shape and complete the origami crane. But here we consider the meaning of unfolding all folds. Unfolding has also a meaning of checking the CP of the model, and it is more peaceful than cutting. If it is only about opening the model, "a twilight like a gentle cow" come to visit. Back to paper, there are also seasonal haiku and comic-haiku such as these ones.

"Orizuru wa kami ni modorite nemurikeri" - Nobuhiro Takahashi

(Orizuru origami crane returns to the paper and falls asleep)

"Orizuru no hodoka rete yuku shinya ka na" - Akira Ishibe

(It's midnight when Orizuru origami crane is unfolding)

In the first poem the origami crane sleeps in its own shape rather than returning to the flat paper. But, in the second one is unfolding. The third poem presented the paper airplane also went back to the paper. And maybe it burned.

"Tanjitsu no dono orizuru mo yoku moeru" - Nishihara Amaki

(Any origami crane on a short day burns well)
The thoughts within an origami crane is difficult to be handled; which I am unsure how to handle when received as a gift.

"Origami no tsuru no shobun ni mata komaru" -

Sumiko Ikeda

(I am troubled again at the disposal of origami crane)

Ikeda's seasonless poem also reflects an actual feeling. But I think that thousand paper cranes should be cremated like in Nishihara's poem. Origami cranes burning in the sinking sun light in early winter. You can burn the folded paper, or open it out completely, and stack it for recycling. It might be that the paper that becomes smoke and the unfolded paper also becomes the power to comfort us by returning to be paper somewhere, traveling around, like origami, as the paper airplane returns as a flower of the lotus.

"Asahina no mon o ju dutsu ju yosete hyakuninriki no tsuru no mon nari" - Rito Akisato
(Ten pieces of Asahina's crests are decorated and the crest of a crane of hundred people)

This is the poem used with the last model "Hyakuzuru" of the "Hiden Senbazuru no Orikata" (1797), which means the following (This interpretation is a reference from "Tsunagi Orizuru no Sekai" by Masao Okamura):

First of all, Asahina is Yoshihide Asahina Saburo who is reported as a hero with unrivaled physical strength. He was a popular character in Kabuki, and the original crest was different, but the actor played it with the crane crest which became famous. In other words, this poem is about one hundred cranes, or as strong as one hundred men. However, it is also the main poem of "Ise Monogatari".

"Torinoko wo ju zuzu ju wa omonutomo omohanu hito wo omofumo no ka wa" - Ise Monogatari

(Stacking ten sets of ten chicks are not possible to manage to like a person you don't like)

The chicks here refer to eggs. Even if you were able to stack 100 eggs, in case of a person who you dislike, there is no way you can get to like that person. As in the expression "Ruiran no ayauki" (risk of accumulated eggs), stacking eggs means complexity. This poem is about the impossibility to like a person you dislike, even if you could make impossible things happen. Although this poem can be unlikely, it sings unpleasant what you dislike. Well, that is just a fact in itself.

Conversely, Asahina reverses it altogether. It is full energy with 100 cranes. It is as strong as hundred men. It is an auspicious day. Orizuru origami cranes are a sort of curse, so certainly there are elements of creepiness as in previous poems. However, if you change the point of view, again, it is happy, bright, fun, strong as a hundred men.

"Orizuru wa ketsunoana kara katsu wo ire" - Haifuyanagidaru

(The origami crane does get its encouragement from the belly opening)

(Page 16) From the Bookshelves of the JOAS Library

Book #63: "Introduction to Computational Origami" by Uehara Ryuhei

Article by Jun Mitani

In this series, we introduce publication items of interest from among the materials in the Japan Origami Academic Society (JOAS) library. You can search the origami library's collection on the Origami Tanteidan website. For details, please visit <http://origami.gr.jp/Library/>.

Jun Mitani: Born in Shizuoka in 1975. Professor of Information Systems, University of Tsukuba, engaged in research on computer graphics.

This book which the author, professor Ryuhei Uehara of the Japan Advanced Institute of Science and Technology (JAIST) had himself compiled the latest research results on the calculated origami which we have been working on so far. It is a handbook that attempts to provide careful and easy to understand commentary.

So, what exactly is "Computational Origami" the title of this book? The word "Origami" is part of this title, but I think that it is a word that we do not hear often, even for the readers of this magazine, who are interested in origami. According to this book, as a field of computational geometry, in the 1990s the research of "polyhedron and foldable Crease Patterns (CPs)" began, and triggered the general problem of "folding" as a basic operation resulting in the expression "Computational Origami" as a research subject.

In general, the target is wider and more abstract than what we would imagine with the word "origami" from folded cranes and samurai helmet-like models made of square sheet of papers, and objects related to the operation of "folding" from an academic or from an algorithmic (computational) point of view.

As described in the 1990s, the history as an academic field is still shallow. But by looking at the list of references at the end of the book, you can find out a glimpse of its remarkable development.

This book is roughly divided into four parts: an introduction to crease patterns (CPs), algorithm of CPs, folding algorithm, calculation amount, development problem.

First, let's introduce a concrete example that is covered in "Part II Algorithm of Crease Patterns (CPs)". Among the many topics covered in this book, a problem exists for "right-angled parallelepiped CPs" that pioneered the research in this field. The problem goes like: given a polygon on a tetragonal lattice, are there multiple rectangular parallelepipeds that can be folded from it?

The answer is yes. And, as an example, the crease pattern found by the author is presented on

Figure 1. When folding using crease pattern (1) in Figure 1, it produces a box of size $1 \times 1 \times 5$; and using crease pattern (2), we can fold a box of size $1 \times 2 \times 3$. Figure 2 shows an image of the CG animation I created showing how the different rectangular parallelepipeds are folded from the crease pattern.

So, are there other crease patterns that can originate multiple rectangular parallelepipeds like this one?

On this article I will only present the results, but details can be found in the book. The minimum crease pattern area which can produce two different rectangular parallelepipeds is 22. The rectangular parallelepiped that can be created are: $1 \times 1 \times 5$ and $1 \times 2 \times 3$, and the conclusion is that there is a total of 2263 such crease patterns.

As shown in Figure 1, it is surprising that there are instances where different rectangular parallelepipeds can be created from the same crease pattern, but it is even more amazing that there are 2263 for an area 22! To be honest, I am more surprised. Actually, I myself cooperated with the author of this book to solve this problem and published on the scientific journal "Origami Kagaku" (Science of Origami) the article "On Common developments of Two Boxes" (by the way, it was a paper published in the memorable Issue 1 Volume 1 of Origami Kagaku Journal)

Although the story will go off track slightly, when I that that this manuscript should be written, I learned through Twitter that the crease pattern on Figure 1 was used as an arithmetic problem for the entrance examination conducted on December 16, 2017 for the Kayo Secondary School, and presented as follows:

The figure below is a diagram of connected squares with sides of 5 cm. It is possible to construct two types of rectangular parallelepipeds without overlapping any square. Calculate the volume the volume of each rectangular parallelepiped. Note that it should be folded only on the dotted lines.

The crease pattern that was published with this question was exactly the CP on the left side of Figure 1.

I am wondering if the question "Is it OK to cut out the problem paper?" was not asked during the examination. Since the question did not ask to actually fold the model, it would be possible to answer based on the following thinking process:

Sample answer (by the author of this article): Consider the length of three sides of the rectangular parallelepiped as natural numbers a, b, c ($a \leq b \leq c$), then the surface area of the cuboid is $2(ab+bc+ca)$. As 22 is number of squares in the CP, then $ab+bc+ca=11$. The only combinations of a, b , and c that satisfy those values are (1, 1, 5) and (1, 2, 3). Therefore, the respective volumes are $1 \times 1 \times 5=5, 1 \times 2 \times 3=6$.

Going off-track even further, the CP presented in Figure 1 gathers interest of many people and becomes a topic and the key item of novel "Hamamura Nagisa's calculation notebooks 4 equation follows singing voice" (Kodansha Bunko). The possibility of building boxes with different volumes from the same pattern paper plays a key role in the story.

As another interesting notion, I will introduce the "rep-cube" covered in "Part IV Development Problem" of the book.

In the CP shown on the left side of Figure 3, there are T shapes attached, a white and black one. One of the T shapes is the CP of the familiar cube. The two units of connected T shapes, folded on the dotted lines will produce a cube with side $\sqrt{2}$ (right side in Figure 3)

In this way, when dividing the CP of a cube into several figures, the figure after division is also a CP of a cube, and this feature was named the author by rep-cube. It is a concept just born in 2016.

This is a figure with some fun features. As in Figure 3, it is shown in Figure 4 that there are 17 kinds of CPs which can be divided into two joint cube CPs and folding into a cube of $\sqrt{2}$ side.

In addition to this, various examples of rep-cubes are presented. For example, a rep-cube that can be decomposed into CPs of four cubes (order 4), a rep-cube that can be divided into CPs of cubes of different sizes (irregular), different shapes of CPs (nonuniform).

Looking at those shapes, it feels like I'm watching the problem of figure puzzles. That makes sense, as the author serves as the director of the JAIST gallery which displays puzzle works, and is also known in the puzzle world as a famous puzzle collector. For this reason, puzzle-like problems appear all over in the book. Throughout the book, we can get a sense of the close relationship between puzzles and origami.

Also, several unresolved problems are presented in the book. For example, the proposition that "For any convex polyhedron, there is always an edge CP (constructed by opened edges, non-self-intersecting CP)." It is easy to understand the meaning of the problem, but the proof seems to be tremendously difficult.

Although the title of this book includes the word "Introduction" (primer), it can be said that the subject is quite a specialized field. It is a compilation in one book of texts that the author has published (mostly in English), which makes it possible to read difficult papers collectively in this good value structure book. Throughout this book, you can look at the path that has just opened up a new field of research, "define new concepts, bring up questions about it, and solve it".

This book has just been published on June, 2018. It can be said that it is the most suitable book to understand the current matter of "computational origami" which is just expanding.

List of Figures:

Page 16, Bottom Left: Kindai Kagakusha 2018

Figure 1: Two rectangular parallelepipeds that can be folded from one Crease Pattern, presented in this book (quoted from page 27)

Figure 2: Two types of rectangular parallelepipeds folding

Figure 3: An example of a uniform rep-cube of order 2 (from page 165 of the book)

Figure 4: Regular and homogeneous order 2 rep-cubes, Figure 2: two rectangular parallelepipeds folding up with an area of 12 (from page 171)

(Page 18) Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

Don't Underestimate a Model's Name

By Gerardo Gacharná Ramírez

Translated by Hatori Koshiro

This section will explore a wide range of topics related to origami and introduce you to some little interesting trivia facts. We also accept questions, and additional information from readers. Please, feel free contact us via email webman@origami.gr.jp.

Gerardo Gacharná Ramírez = Born in Bogota, Colombia. Since 2010, he has worked with origami in earnest and have created more than 70 models so far. He is mainly interested in practical models and published "Practigami" in 2013. In addition, he manages the blog "Neorigami" (<http://neorigami.com>).

Koshiro Hatori = Born in Tokyo in 1972. Master's degree at the University of Tokyo and M.A. at George Washington University. Translator (IT related) and origami artist. Board member of Japan Origami Academic Society (JOAS). Origami related translations include "Genuine Origami" (English translation), "Doctor Hull's origami mathematics classroom" (Japanese translation) and others.

Trivia 1: The title of the origami model contains the intention of the creator.

Trivia 2: Honoring the title raises the value of origami.

Regarding the creators' intentions, art academic John Fisher explained on his 1984 article Entitling that he saw artwork titles as guides for the interpretation process. In a similar venue, the philosophy professor Jerrold Levinson—in his 1985 article Titles—described how they guided perception of the stimuli we're exposed to through the work. Simply put, an origami model—without the name—can be many things. The name of a model takes us closer to the intention of its creator. It helps the observer see what was created as the creator intended.

Continuing, in figurative and geometric origami it's important to know a little about the

philosophical term “reference”. This term, from the philosophy of language, is related to the capacity of symbols to represent an object. The referent of a model is the object referred by it. When creating a new figurative or geometric model, I suggest you check if it’s ready by asking if the fold—without the name—is enough to evoke the referent.

In that sense, complex models (with many details) excel in evoking the referent. Hippocampus by Román Díaz inarguably represents the mythological creature. (Figure 1) Aside from that, complex origami has also allowed an increasing specificity of its referents.

Still regarding the reference, many traditional model names are very descriptive, depicting its referent: a crane, a tulip, a table ... It’s similar with most modern models, their names also describe what the models “are”. However, some others do something more than that.

1. Fan art models usually have a different name from the subject they’re referencing. When successfully resembling the trademarked subject, they become a sort of inside joke: we are all being told that they represent something else but we all know what they really represent. (Figure 2)

2. Some modern model names serve as tribute to real people, pets, places, etc. For example, Juliana Star is a modular model created by Diana Vargas named after her niece. (Figure 3)

3. Some other names are a “marketing” strategy, helping to draw more attention to a model. A creative name keeps the observer thinking and pondering new ideas related to the name. -sebl- named one of his models Climb Peaks instead of Frog Holding on to a Leaf since that’s exactly what it resembles. (Figure 4)

Now, most tessellations and kusudamas differ from what I’ve mentioned about figurative and geometric models. Although they are geometric, they don’t usually have a specific referent. That’s why, for example, David Martínez names his tessellations instead as human values or qualities, reminding about them as people seem to forget them (Figure 5). Aside from this, there are also figurative models of previously non-existent referents. These give birth to the new referents. For example, Víctor Coeurjoly creates models that play games with our perception. Their names try to enhance the perception games instead of ending them. (Figure 6)

Passing on to practical origami, it’s useful to know something about the philosophical term “class”. In a class, according to also the philosophy of language, different objects share certain attributes that make them what they are. Practical origami doesn’t evoke referents, it

crafts the real objects through folding techniques. In that sense, an origami lampshade isn’t evoking a real lampshade... it is one.

In some practical models the class isn’t self-evident. My Octagonal Case with Blossoming Seal is supposed to be seen and used as a tool for storing objects with little volume (Figure 7). Yet, without the name, it can easily be mistaken for an ornament. When creating a new useful model, name it in a way that guides users as to how to interact with it. I also suggest that you check if it’s ready by verifying if, as part of a class, it does accomplish the expected task. So, if it’s a flat model that can conceal and hold flat objects, then it can be acknowledged as an envelope.

Now, not all useful models are ambiguous without a name; the common box can easily be recognized as part of the box class without the help of the name. Aside from that, there are also practical-figurative models, for example Swan with Box-like Body by Víctor Juárez Quintero (Figure 8). When creating this kind of models, I suggest you check if it’s ready both through referentiality and efficiency.

Up to here, I’m proposing that you, as a creator, name your upcoming models after pondering your intention and understanding a little about reference and class. I also propose you check their readiness while having an idea of the role of names in each case. Let’s now pass on to the last topic; the following are some common practices by origamists which hinder names’ potential along with my respective recommendations.

First, sometimes folds in convention exhibitions don’t include artwork labels. This practice strips the model of the creator’s intention. According to Levinson, the title is part of the artwork; you can’t critique the piece without including its title. Use artwork labels when exhibiting folds in order to complete the relation between the observer and the fold. Without them, there is no hint as to what is intended for him or her to observe.

Second, origami instructors, but also magazine and book editors, sometimes abusively change the name of other people’s creations. For example, Ring of Power and Fortune by Naty Nefesh was changed for simply Ring by the editorial staff of a convention book (Figure 9). Levinson states that you will incorrectly critique an artwork when using a title given by someone different from the artist, no matter its amusement, enlightenment or suggestiveness. Avoid forcing a false identity onto a model by exclusively sharing the name given by its creator. Third, living in a Spanish-speaking country has showed me that many origamists don’t translate the English names when interacting

with other Spanish speakers. However, not too many people understand English here and probably in the rest of the Spanish-speaking countries. Psychology professor Margery B. Franklin published her article Museum of the Mind: An Inquiry into the Titling of Artworks in 1988. According to her, titles are messages related to the artwork composed in a particular code. A code comprehensible for the receiver is important for communication. Hence, use the shared language when stating the name of a model, so it can accomplish its task in relation to the observer, the model, the intention, the referent, the class, etc.

On a related case, some Spanish-speaking origamists are naming their own creations in English despite sharing them with other Spanish speakers. Translation specialist, Maria Luisa Rodríguez Muñoz, criticizes similar practices on her online article Tendencias Actuales en la Traducción de Títulos de Obras de Arte Plástico ("Current Tendencies in the Translation of Titles of Works of Plastic Art") from 2009. In the article, she complains about the indiscriminate use of foreign languages, in art exhibitions, without taking into account the intended public. Naming through a foreign language reflects a form of snobism, obscuring origami from many.

Through this article, I've offered a general picture of the depth of model names. These are arguments as to why creators should understand that depth when naming their models and other origamists ought to respect those names. That respect can help origami's recognition by the general public, but if even we don't respect the names of our peers' or our own models, then how can we expect the general public to value origami as something more than a childish distraction?

Note: This article is a translation of the summarized version of the article published on The Fold, OrigamiUSA's online magazine: "Would a Kawasaki Rose by Any Other Name Smell as Sweet?"

(<https://origamiusa.org/thefold/article/editorial-wouldkawasaki-rose-any-other-name-smellsweet>).

List of Figures:

Figure 1: "Hippocampus" by Roman Diaz (folded by Andres Rosano)

Figure 2: "Pre-historic Squirrel" by Fernando Gilgado (folded by Atilla Yurtkul)

Figure 3: Juliana Star by Diana Vargas

Figure 4: Atilla Yurtkul's fold of -sebl- 's Climb Peaks

Figure 5: Friendship by David Martínez

Figure 6: Treer by Víctor Coeurjoly

Figure 7: A fold of Octagonal case with Blossoming Seal by Gerardo Gacharná Ramírez

Figure 8: Rui Roda's fold of Víctor Juárez

Quintero's Swan with Box-like Body
Figure 9: "The Ring of Power and Fate" by Nathie Nefesh folded by Louis Roda

(Page 11) Orisuzi ("Fold Creases") Origami and My Life By Hiroaki Kobayashi

When I was in elementary school, I already liked origami and did discover a volume of "Viva Origami" at the library. I challenged the Devil many times and managed to fold it as I borrowed "Top Origami". However, after graduating from junior high school, I did not do origami, and proceeded to get a job.

A few years later, I remembered about origami as I thought about a starting a hobby to relax from the stress of work. I searched on the internet, and found an abundance of complex and sophisticated origami models. In particular, I fell in love with Satoshi Kamiya's models, and did sink into the world of origami. I bought the Origami Tanteidan magazine back numbers and folded all possible models. The models by Kamiya were difficult, so it took a year for me to fold the Ancient Dragon.

The event that became a turning point for me was participating in "Origami Creator's Classroom". At that time, I felt uneasy participating in the classroom, but I was curious and determined to participate. And that decision was right. In the classroom I learned a lot and it was a wonderful experience. Using washi Japanese paper, cutting out large paper, doing things like pretreatment of paper with CMC. It was awesome to be close to the Kamiya who I admired so much! I even got an autograph!

A few years later I finally stepped into the world of creative origami. At one point, I thought if I wanted to create a pig and folded the paper, I felt I could do it if I worked hard enough. With repeated trial and error, I somehow created the first creative origami model. I experienced a different feeling of pleasure from when I simply folded well a model. Then I continued to create some more models but I was not confident of the work. Then, I dared to present my own model at Nishida Shatner's origami classroom. I got positive comment: "the Chameleon's face is nice". Although the praise was pleasant, I also liked his posture who carefully cherished his own models. So, I felt that I should feel proud and cherish my own models too.

I participated in conventions, and spread the world of origami via Twitter. I was in my thirties when I first began designing origami models, but I do not consider it was too late as I think that I could continue designing for several more decades (I hope). I'm glad I met origami. I'm glad I challenged creation. "Origami" that enriches my life is wonderful!

(Page 12) Shirokujichu ("Origami Around the Clock")

22.5 degrees!

By Jun Maekawa, Japan Origami Academic Society (JOAS), board chair

The 22.5 degrees angle is a familiar one with origami. It is one quarter of a right angle. When this angle is used for the basic structure of origami work, it is called "22.5-degree style model". I personally love this angle, so I get excited see when I see the number 22.5. The other day, as the gas mileage of my car display on the dashboard of the car became 22.5 km/l. So, of course I had to stop in the parking area and take a photo, and I was amazement (disgust?) of the passenger seating next to me.

The inclination of the Earth's axis relative to the revolving surface is about 23.4 degrees, but I wish it was 22.5 degrees. The regression line that separates the tropical zone from the temperate zone is also perfect as latitude 22.5 degrees. By the way, since the inclination of the earth's axis is fluctuating, there are times when it is 22.5 degrees when viewed in the length of tens of thousands of years. Talking about latitude, I also found that there is a park named 幸福公園 "Xingfu" (Happy) Park located at 22.5 degrees North of Kaohsiung City in Taiwan, so I'd love to visit it someday. The radio telescope ALMA in Chile is unfortunate, as it is located around latitude 23.0 degrees South.

There is also such an angle in the Summer Triangle constellation (Deneb, Vega, Altair) in the night sky of summer to autumn. The triangle created by three brightest stars is almost an isosceles triangle whose apex angle is about 45 degrees (twice of 22.5 degrees) and the base distance (angular distance) is about 23.8 degrees. This is almost in line with the angle created when the hand is straightened and the thumb and little finger are fully opened. This measurement with the body intuitively seems to be a narrow angle, but the distance between the eyes and the fingertip when looking upward is approximately 1/4 of a right angle.

Also, there is a phenomenon called halo (sun halo, moon halo) when we can see a circle of light around the sun or the moon. The angle is determined by the shape and refractive index of the ice crystals, about 22 degrees and 46 degrees. This is not really because it is 1/2 of a right angle or 1/4. Similar to the inclination of the axis of Earth and the Summer Triangle, it is different with the fact that the gas mileage was 22.5 km/l. But, for the 22.5-degrees lovers, it is a pleasant phenomenon. When it makes an appearance, please extend your arms and make sure to measure it.



■The tenth Origami Tanteidan Shizuoka convention Registration open

Origami Tanteidan Shizuoka Convention will take place after a 2 years break. The venue will be at Miho Training Center, Tokai University Social Education Center, close to Miho-no-Matsubara World Cultural Heritage site. Accommodation and convention venue will be the same, and popular among participants. Accommodation are going to be a shared room, so the rates will be reasonable. Also, a social gathering banquet dinner at the aquarium will be fun. The special guest is French origami creator and former president of MFPP, Viviane Berty. We also plan to have an Origami ATC (Artist Trading Cards) exchange.

【Date and time】November 23rd (Friday) to 24th (Saturday), 2018

【Venue】Tokai University Social Education Center Miho Training Center (2438 Miho Shimizu-ku, Shizuoka-shi, Shizuoka Prefecture) / Directions: Take JR Tokaido Line to Shimizu Station, take the bus from the Eguchi exit to "Miho Aquarium", about half an hour

【Registration fees】Adult: 4,500 yen / Student: 3,000 yen / Elementary school student with parent-child discount: 2,000 yen

【Reception dinner banquet】Friday, 23rd (for interested only)

Fees includes aquarium admission

Adult: 4,500 yen / junior high school student and younger: 4,000 yen

※ A social gathering will include dinner on the first day. Held at Tokai University social education center Miho Aquarium in front of the large tank. You will be allowed to visit the aquarium on the 1st floor.

【Application】Please use the enclosed application form / Capacity: 150 people / Deadline: November 10 (Saturday)

【Accommodations】We will be staying at the Miho Training House lodging rooms. A large room will be able to accommodate 6 to 8 people: ladies on the second floor and men on third. 4,100 yen for one night including breakfast (If you do not need breakfast, please ask). The only dinner planned is the one during social gathering banquet. Accommodation on the 22nd (Thursday) will be available.

【Application form】Send to Japan Origami Academic Society (JOAS) office (mail or fax) TEL & FAX: 03-5684-6080 / Address: 1-33-8-216

Bunkyo-ku, Tokyo 113-0001

【Contact】 Japan Origami Academic Society (JOAS) office: TEL & FAX: 03-5684-6080 / <http://origami.eshizuoka.jp> (website of Shizuoka Tomonokai)

◆WOD 2018 October 24 ~ November 11

【My WOD Report】

During the WOD period, download the "WOD Entry Sheet" from the website (<http://www.origamihouse.jp/wod2018/Application.html>), print it, fill it, and place the model that you folded on top of the label, take a picture. Please share it on Facebook, Twitter, blog. You can choose models to fold at your own taste, participation can be individual or in a group, as many times as you like. Please participate to spread the joy of origami.

【Origami theme exhibition】

The theme of this year is the zodiac for year 2019 "Pig". We ask for submissions by the creator, but the models can be new or an old creation. Please post in the same way as "My WOD Report". Live exhibition: We will exhibit models at the gallery Origami House. Please send your finished "Pig" models.

【Art Museum Exhibition】

Using "WOD Entry Sheet", photos posted directly to the Japan Origami Academic Society (JOAS) by social media or e-mail for WOD submission will be posted on the special page in the Origami Art Museum website (<https://www.origamiart-museum.com>)

WOD posting email address: wod2018@origami.gr.jp

Model exhibit: From October 24, 2018 OrigamiUSA's WOD activities. Please visit the Web page. <http://origamiusa.org/wod>

■24th Origami Tanteidan Convention Report

Note: Related photos on page 22

By Paolo Bascetta

Translated by Marcio Noguchi

An unforgettable experience.

It was Sunday 11 March when I am invited to participate as a special guest at the Tanteidan convention organized by JOAS and participate in the Korean convention the following week! I could not believe it.

In Tokyo met my guide Marcio Noguchi the same day of the conference. I had also known that I would be in the company of Paul Jackson participating in the Japanese conference and special guest at the Korean conference. In Korea, we would be exchanging roles.

The convention was at Toyo University. On one floor there was the model exhibition hall, another room for contest models and the main auditorium with 300 seats and two screens! I put my models on display and at 13:30 exactly, the "special lectures" started. I was brave and

presented in front of almost 400 people. I talked about the past, the present and the future of origami in Italy.

I enjoyed finding "victims" of the "button hole puzzle" : Satoshi Kamiya, Jason Ku Maeng Heung Gue and Lee In Seop and many others.

The following day, Saturday, we had two lectures of the two Korean guests Maeng Heung Gue and Lee In Seop. I held two classes assisted by Marcio: "Runners" and "Truncated Octahedra"

Saturday evening, we all move to the 16th floor of the university building for a rich dinner banquet. The view of Tokyo was truly spectacular. Makoto Yamaguchi, was the great master of ceremonies of the evening. I tasted all food: sushi, noodles, shrimp, etc. I was very excited. We first relaxed with a bingo game. And then I was presented the Yoshino Issei Fund in a real Noshi envelope. I do not think many Italians received a very original Noshi!

On Sunday I gave two classes (Inside1 and Arrows). And I attended Jun Mitani's class on curved origami.

The conference ended. Among other Japanese wonders, I look for paper shops.

Many thanks to all the Japanese friends for their patience, hospitality, courtesy and enthusiasm. I hope to see you soon. Maybe at an Italian convention! We certainly are much less punctual or elegant, but we also know how to be kind, friendly and fun. But always with respect.

By Maeng Heung Gue

Translated by Oh KyungHae

In 2018, I was fortunate to have meaningful opportunity to be one of the special guests at the Origami Tanteidan Convention.

I was glad that I could see so many amazing models from enthusiasts who gathered around a common theme called Origami, their own creations, or from people who folded and brought the work of their favorite designers.

More than 400 people participated, I thought that it was wonderful with systematic organization.

Unfortunately, it was a short period, but it was a big experience. Again, I would like to thank the convention staff and the Japanese Origami Academic Society for inviting me.

By Lee In Seop

Translated by Oh KyungHae

Together with Maeng Heung Gue, it was an honor to have been invited as a special guest of the Tokyo convention. I was delighted that my unique work was recognized and understood.

For the lecture, I chose the most unique theme of my work and focused on it. It is because people wanted people to feel interested in the direction of new creation and in fact it is not hard to understand all my works.

However, after showing the models according to the idea conforming to the presentation theme, more people thought that it was "a good lecture"

and I received much more praise and encouragement than anticipated. If there are such creators in Korea, it would be satisfying if they can be remembered.

I am grateful to all the participants and the invitation from Japanese Origami Academic Society (JOAS).

■Origami Tanteidan Tohoku Tomo-no-kai Reunion party in Yamagata

By Shunichi Ashimura

Hello, this is Ashimura. For the first time, on August 25 and 26 we organized the Tohoku Toukai get together, a social gathering event at the hot spring lodging.

【Venue】

The event took place in a Kaminoyama hot spring in Kamiyama city, Yamagata prefecture.

Several students from Yamagata Prefecture usually participate in Tohoku activities in Sendai City, so in order to make the commute easier, this time we tried to organize a social gathering in Yamagata Prefecture.

【Participation】

Mr. Fukushima from Tohoku Tomonokai, Asano (Yamagata University), Akiba (Tohoku University), Ashimura. And from Tokyo Kanto region Yamaguchi, Takemura, Matsuura, Sumiya, Sumitani, Nishimura came from Kansai (!)

【Contents】

This time, it was a small number of people, we did not arrange any events in particular. We enjoyed the hot springs, a relaxing meal and liquor. However, we started drinking alcohol prepared for the second part of the event before dinner, as we wanted to just "taste it a bit". The conversation and sake advanced steadily. It was unexpected, but we were already drunk since early evening. (Well, of course I am the one who started it...)

As for the Tohoku crowd, the students seemed to be happy to hear the various stories of Mr. Yamaguchi. I think that it was significant that the topic on future bigger activities came out.

On the second day, we bought souvenirs at the "michi-no-eki" road station of Tendo City and ate the gelato produced from the prefecture products, and finally closed the event.

【To all participants】

Thank you very much for those who came from far away, by car or train. Especially Mr. Nishimura, who demonstrated passion coming ahead of the time. (Before all participants gathered, we took Mr. Nishimura took on a short drive to see the waterfall, so we even took a picture with the "rider pose")

【In the future】

As it was our first trial, it was messy and the organizers were not as well prepared. But, we will think about something for the future. We will make the announcement so we thank you for

your support!

■Korea Convention Report

(Related photos on page 24)

By Kaito Nagayama

Quite honestly, I was very surprised when I was informed by JOAS that they wanted to recommend me as the special guest for the Korean convention. That is because there are many more Japanese creators of the same generation who I consider who have much better creative skills than me. Then, I thought about the significance of participating as a special invited artist, and I came up with a detailed knowledge of the origami groups in Japanese universities. Therefore, I became aware that for the future development at the Korea convention I could introduce the Japanese student origami creators as well as learn about the environment of origami in Korea.

In the lecture I gave as the special guest, I introduced individual activities and those of the origami group network. Also, while interacting with young Koreans, I felt that the base of the student origami group was limited at the Korean universities, in terms the origami group and club activities. On the other hand, the certification system organized by the Korean Origami Association (KOA) is quite substantial, and there seems to be a lot of enthusiasts learning not only the techniques to fold but also related to reading and drawing origami diagrams. Everyone participating in the Korea convention were friendly and there were many who could speak Japanese. So, I hardly had any problem with communication. The origami classes were similar to the Tokyo convention. But, it was impressive that microphone and document camera were installed in almost all classes. The classes were basically conducted in Korean, so I could not understand the explanation. But, I was able to attend because those people sitting next taught me in English or making gestures.

I am very thankful for the opportunity to have such a valuable experience as a special guest, and going forward I will make efforts to bridge between Japanese and the Korean origami groups.

By Ryo Hashimoto

It seems that the number of participants of the Korea convention increased year after year to around 260 people this year. The venue and the accommodations were located in the same building, and many of the young Koreans stayed at the accommodations at the venue. In the evening, we went to a large room of young folders and had fun together and deepened our cultural exchange. The Koreans were very kind and friendly and got along well quite quickly.

The average age of participants in the convention was younger than Japan. It seems

that there were a lot of elementary school students and those on their twenties. I had a feeling that the number of older folders were small. I felt at home among the young, but without barriers between young and old, male and female, etc.

As for the exhibition models, there were many models from young creators similarly to Japan. The quality of the final shaping was in general high for all exhibition models, and I had the feeling that there was attention to the paper being used as well. It seems that the average level of the models is high with a feeling of a unified level of style, and information exchange in Korea is flourishing.

Every year, young Koreans publish a collaborative diagram collection called "ORIGAMI PRO" produced by Korean Origami Association. They are committed to the development and dissemination of origami. Japanese young often require to be motivated by the "strong words" of Mr. Yamaguchi to draw diagrams, so and want to learn about the autonomy and motivation of young Koreans.

In Korea there are not many veteran creators, and it seems that young people of today are moving forward the Korean creative origami. I truly appreciated the opportunity to have such an exchange with such momentum, which allowed me to gain an invaluable experience. I would like to thank the Korean Origami Association for inviting me to the convention and to Japan Origami Academic Society.

■ORI-mpic - PAPER-alympic (interim title) Exhibition Models Requirements

[Overview]

Prior to the Tokyo Olympic Games and Paralympic Games in 2020, we thought about organizing events related to this international event in the origami world. We decided to exhibit origami model diorama with the theme "Olympics Paralympics games". We will display for a period of about a year, starting on August 2019, at the Gallery Origami House and JOAS Hall. (The content may change)

[Exhibit details]

Name: ORI-mpic - PAPER-alympic (interim title)

Location: Gallery Origami House - JOAS Hall (next to Origami House)

Period: August 2019 - August 2020 (planned)

* Pre-exhibition by early bird models will be held from September 2018 to July 2019 at JOAS Hall

[Model Requirements]

Origami model Diorama made under the theme "2020 Tokyo Olympics · Paralympic Games Competition". Winter competitions and competitions from the past will not be accepted. Also, emblems and mascots will not be accepted.

· In principle, one model per one competition will be accepted. There will be no restrictions on

the number of people and objects for one work.

· The Diorama work should be created so that it can be exhibited in a glass case of 28 cm (Depth) 37 cm (Width) × 37 cm (Height).

· Be sure to ensure that all models in the diorama are wired and fixed. Since it will be an exhibition lasting a long period of time, make sure that everything is reinforced so that the models will not become unstable. If the model breaks during the exhibition, the exhibitor may fix the model.

· The main piece should be made of origami. There are no technical restrictions with regards to the number of sheets used, glue/reinforcements. Because it is a diorama work, it will be acceptable to create a base or background using materials other than origami (as long as it will not load the display platform). If you have need technical clarification, please provide details at the time of entry.

[Application]

· Applications will start in September 2018. However, we will continue to accept applications during the exhibition period on and after August 2019.

· Models received before August 2019 will be exhibited at the "Pre Exhibition" at the special space of JOAS Hall (next to Origami House), together with those received before July 2019.

· No restrictions with regards to experience, age, nationality. A preliminary selection review will be conducted by the person in charge of the exhibition. For the application, please fill in the following information of application and send by e-mail, and then send the model.

1. Creator's name

2. Address · Zip Code

3. Telephone number

4. Diorama Title

5. Competition Title (unnecessary if it is the same as title)

6. Techniques (number of sheets used, use of cuts, geometry of paper used, etc.)

7. Comments (Paragraph with about 100 words)

8. Photography illustrating how the diorama should look like when exhibited

<Address>

e-Mail for application: info@origamihouse.jp

Address to send models: Origami House

1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku Tokyo 113-0001

[About use of models]

We may use photos of entries for the magazine, website of the Japan Origami Academic Society (JOAS), Origami Art museum, etc. Also, Origami House, the Japan Origami Academic Society administration, the Japan Origami Academic Society board of directors, the Origami Art Museum steering committee may use the models or photos for interviews, or other related purposes where deemed necessary.

超絶飛行性能

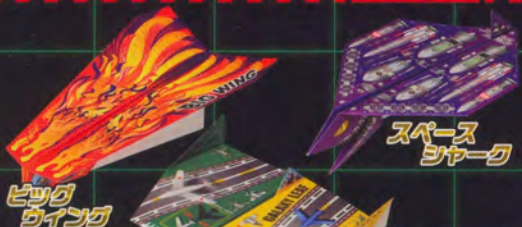
ヒコーキ おりがみ

¥300
(税抜き)

point
ヒコーキ軽量化

» 薄い用紙を採用し飛行能力がアップ!

29cm サイズのビッグおりがみ MEGA



ビッグウイング

スペースシャーク



ホーンファイター

コスモドルフィン

ファイアクロウ



ビッグウイング

スカイカロス

スペースシャーク



ジェネラルホーク

滞空時間

難易度

カッコよさ

テクニック



» 飛行能力を高める為に、ヒコーキ用紙に薄い紙を採用
» 前方はしっかり折込み、羽の面積をなるべく大きく設計



ギャラクシーリーフ

滞空時間

難易度

カッコよさ

テクニック